

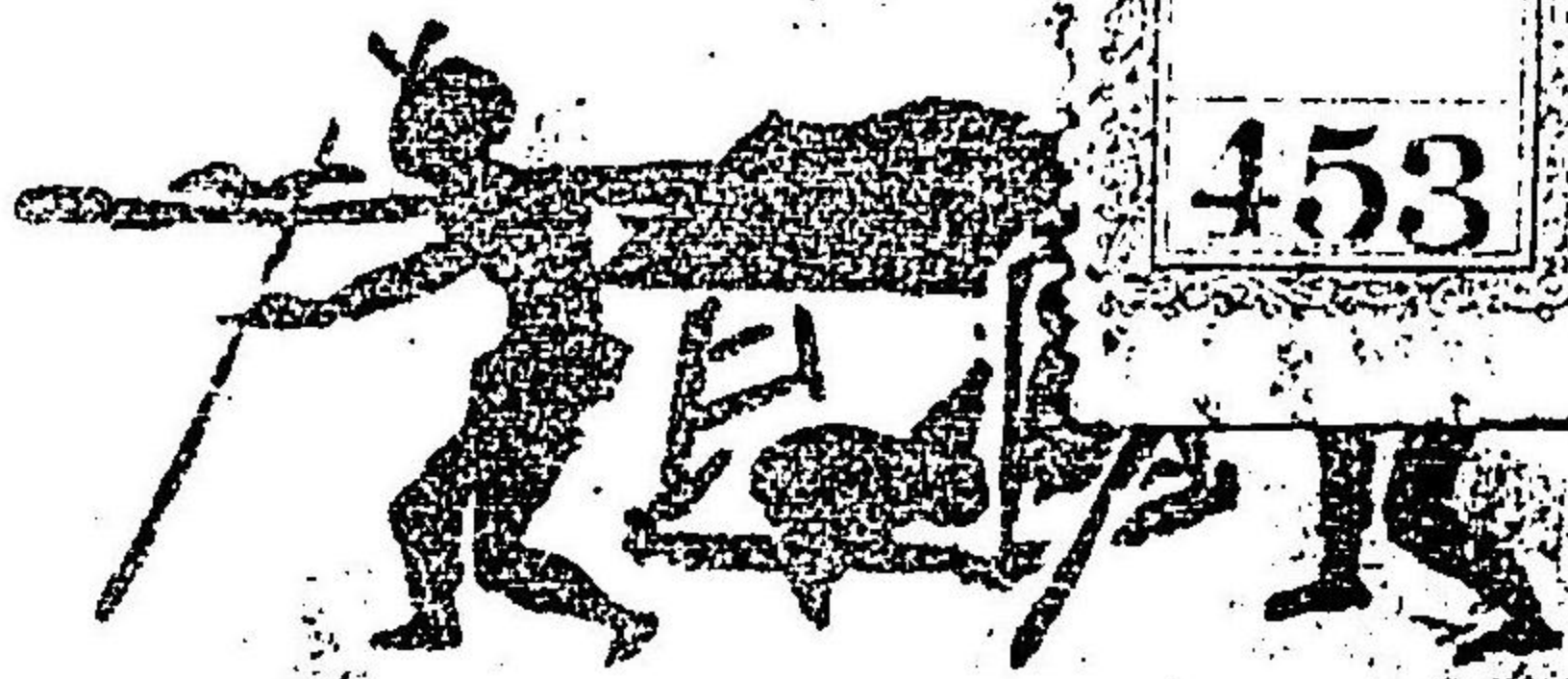
旅

の

旅

268

453



はしがき

- 一、本書は明瞭簡單を旨とし、其土地に於て最も顯著なる名勝舊跡を撰擇して掲載せり。
- 一、本書は東京を中心とせり、且此の書の目的上より紙數の都合上よりして東京附近に存する名勝舊跡の説明比較的精密にして漸次地を隔つるに従ひて疎雜となり而して北海道、琉球、臺灣、小笠原島、樺太、朝鮮を省略せり、讀者之を諒せよ。
- 一、本書の卷末に旅行日記を附し、以て讀者諸兄の旅行用に供す。

編者識

44.10.9

内文

目次

關八州……………一頁

武藏、相模、安房、上總、下總、常陸
上野、下野、

東北地方……………五九頁

磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽後
羽前、

中央部……………六九頁

伊豆、駿河、甲斐、遠江、三河、尾張

目次

伊勢、伊賀、志摩、信濃、飛騨、美濃
近江、越後、佐渡、越中、能登、加賀
越前、若狹、

畿内……………一〇九頁

山城、大和、河内、和泉、攝津、

山陽山陰……………一二三頁

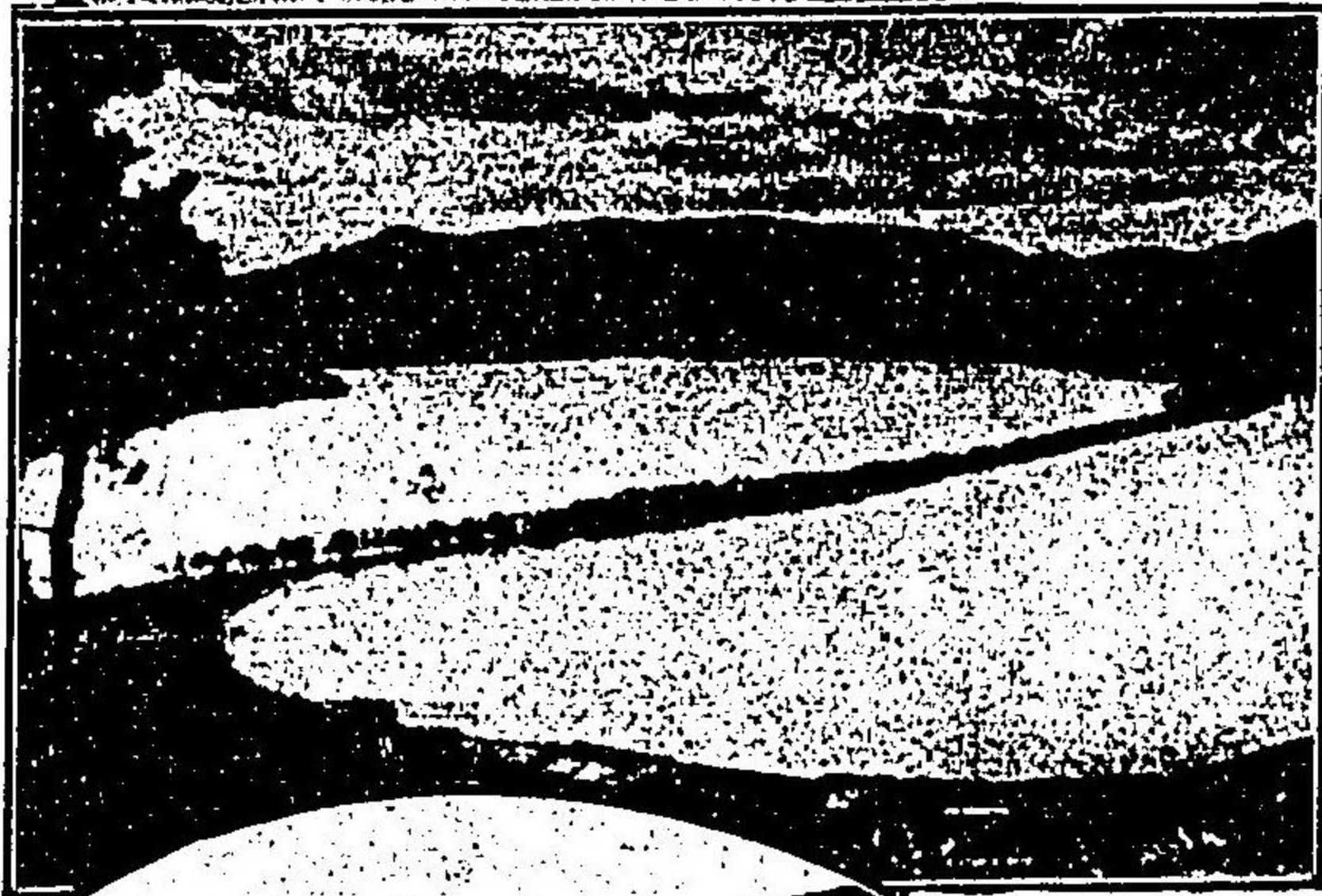
播磨、備前、美作、備中、備後、安藝
周防、長門、丹後、丹波、但馬、因幡
伯耆、出雲、隱岐、石見、

南海西海……………一三四頁

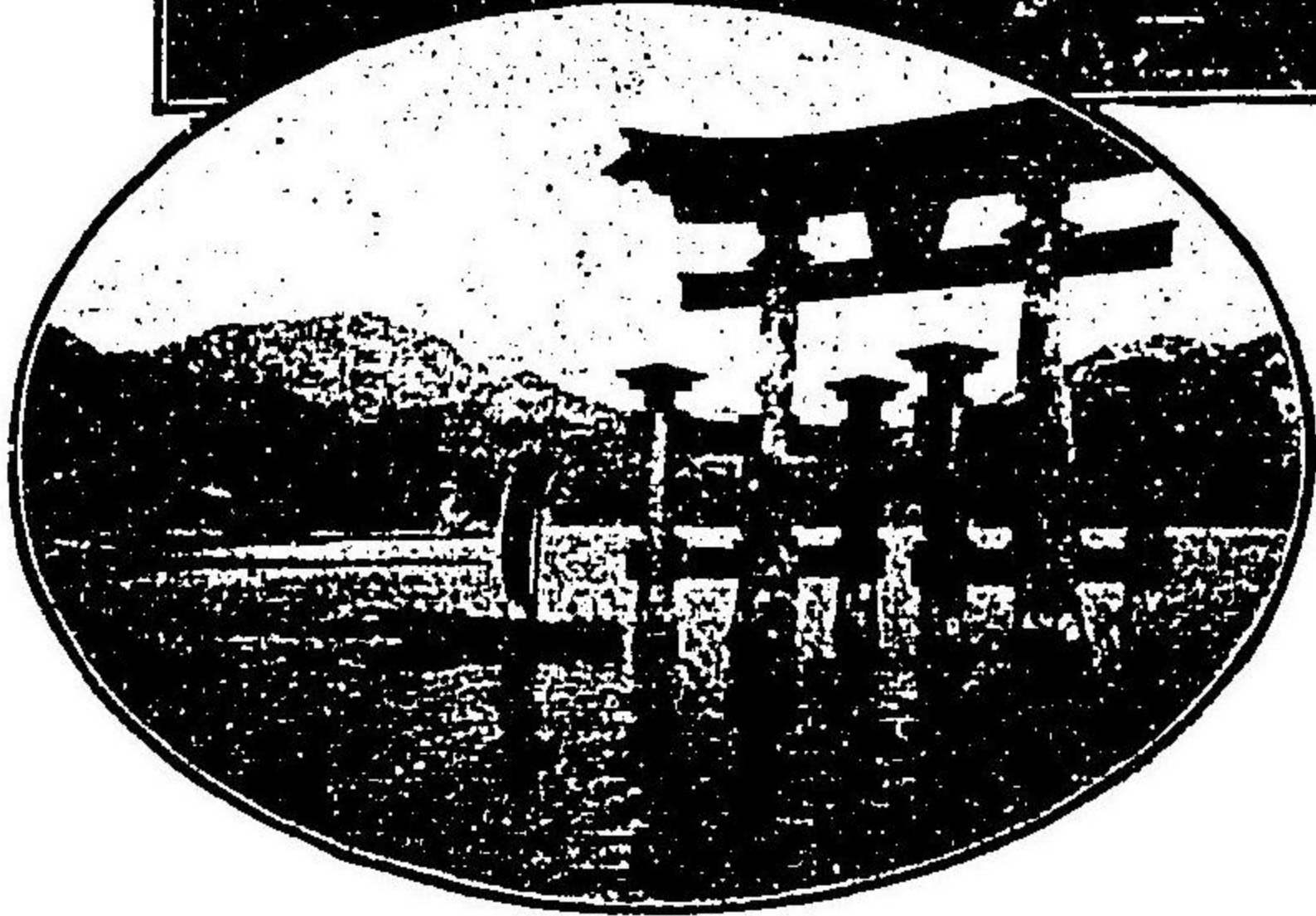
日 本 三 景



松島 (陸前)



天橋立 (丹後)



嚴島 (安藝)

目 次

紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐
 筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、豊岐
 對馬、肥後、日向、大隅、薩摩、

附 錄

旅行日記

園公三本日



金澤 兼六公園



水戸 常磐公園



岡山 後樂園

旅の友

關八州

武藏國

東京市内の名所

東京市は人口約百九十萬を有する東洋第一の大都會にして我帝國の首府なり、されば皇居を始めとして帝國の政務を統括する諸官舎は皆此の地に在り。
市内の名所の詳細なるに至りては東京名所案

關八州

尾崎怪浪著

内記に譲りて茲には單に重なる名所を各區に分ちて列擧するに止めん。

麹町區

宮城 麹町區の中央に位し、周回約二里餘、三歳の童兒も知る二重橋は櫻田門内に在り。
櫻田門 安政五年時の大老井伊直弼の刺殺せられしは此の門の外なり。
靖國神社 富士見町に在り、國家のために斃れたるものの靈を祀る。
平河天神社 平河町に在り、祭神は菅原道真

特 30
253

なり。
日比谷公園 市内に於て最も完備したる公園なり、四時共に眺望佳なり。

神田區

神田神社 宮本町に在り、大貴已命を祀る。
萬世橋 神田川に架する鐵橋なり。
ニコライ會堂 駿河臺に在り、其巨堂天に冲す。

日本橋區

水天宮 蠣殻町に在り、安徳天皇、建禮門院、平時子を祀る、毎月五日には賽人群集堵を成

して雑沓を極む。
薬研堀不動尊 薬研堀町に在り。

兩國橋 吉川町と本所元町とに架したる橋にして東京五大橋の一なり。

日本橋 其裝飾の美麗なる事日本第一なり。

京橋區

濱離宮 新橋停車場の東隣に當る海濱に在り。

西本願寺 築地四丁目に在り、本堂は巍然として雲表に聳ゆ。

永代橋 新堀町と深川佐賀町との間に架したる長橋なり。

深川區

宮岡八幡神社 宮岡門前町公園内にあり。
芭蕉庵舊址 西元町にあり、「古池や蛙飛びこむ水の音」の一句を吟ぜし舊址なり。
深川不動尊 宮岡門前町にあり。

本所區

同向院 兩國橋東詰にあり。
五百羅漢寺 緑町にあり。
龜戸神社 本所區の東端にあり。藤の頃は池畔の景致雅趣に富む。

淺草區

淺草公園 各興行場ありて四時常に雑沓を極む、淺草寺は公園内に在りて俗に淺草觀音と稱し天台宗に屬す。

東本願寺 松清町に在り、本堂の結構西本願寺に譲らず。

廠橋音妻橋 兩橋共に本所との間に架したる長橋なり。

下谷區

上野公園 昔之を忍ヶ岡と云へり、園中に存する名高き神社佛閣には清水觀音堂、大佛、

五重の塔、兩大師、東照宮、寛永寺、彰義隊の墓、徳川氏の靈廟等なり。又博物館、動物園等もありて四時共に賑ふ。
不忍池 上野公園の西にあり、池の中央に辨財天の祠あり、賽人常に多し。
天王寺 谷中にあり、天台宗に屬す。
入谷朝顔園 入谷町にあり。

本郷區

湯島天神 湯島町にあり、菅原道真を祀る。
根津神社 根津須賀町にあり、素盞鳴尊を祀る。
目赤不動 駒込淺嘉町にあり。

吉祥寺 駒込吉祥寺町にありて曹洞宗の巨刹なり。
靈雲寺 湯島新花町にあり、關東真言律の總本山なり。

小石川區

傳通院 表町にありて淨土宗に屬する名刹なり。
白山神社 白山前町にあり、伊弉册尊を祀る。
大學附屬植物園 久堅町にあり、衆人の入場を許す。
目赤不動堂 關口臺町にあり。
護國寺 音羽町にありて新義真言宗に屬す。

牛込區

高田八幡神社 高田町にあり、應神天皇を祀る。
赤城神社 赤城元町にあり、牛込氏神なり。

四谷區

須賀神社 須賀町にあり。

麻布區

善福寺 麻布山元町にあり、關東七箇寺の第一に位し、現今は眞宗に屬す。

赤坂區

青山御所 皇太子殿下の御座所なり。
赤坂離宮 青山御所の北隣に位す。
氷川神社 氷川町に在り。

芝區

芝公園 園内には三縁山増上寺(關東淨土宗の本山)、東照宮、徳川氏の靈廟等ありて幽寂なる公園なり。
金比羅神社 琴平町にあり、祭神は大物主神崇徳天皇なり。
愛宕山 山上に愛宕神社ありて眺望に富む。

泉岳寺 高輪車町にあり、萬松山と號す、境内には彼の赤穂義士の墓あり。
東禪寺 泉岳寺の南にあり、妙心寺派なり。

東京市附近の名所

東海寺 品川町にあり、禪宗にして澤庵和尚の開山なり。
海晏寺 南品川町にあり、楓樹を以て著る。十二所權現社 淀橋町角筈にあり、夏時此地に涼をとる者多し。
大久保躑躅園 大久保百人町にあり。
飛鳥山公園 王子村に屬し櫻花を以て知らる向島 櫻花の名所にして花時の雑沓云はんか

たなし、附近には三圍神社、牛の御前、長命寺等あり。
堀切菖蒲園 初夏の候には紫、白色の菖蒲咲きて頗る美觀を呈し、遊覽者甚だ多し。

青梅町

飯田町驛より乗車し、立川驛にて青梅線に乗換へ青梅驛にて下車すべし。
青梅町は多摩川の沿岸に位して甲州裏街道に於ける第一の市街なり、土地高燥にして水清く且空氣清潔なるを以て脚氣病者等の轉地療養には至極良しとす。
海岸の廣潤なる風色もとより愛すべけれど

も、山光水色皆縁ならざるなく、涼氣自ら襟懐に入り来る風景又愛すべし、此地香魚を以て名高く、濼瀬なる鮮魚を下物となして一杯の冷麥酒を舉ぐるの快、蓋し何物にか譬へん。
青梅町の西方に當りて青梅金剛寺と稱する古刹在り、一夕散策の杖を引くに足る。

氷川公園

中仙道大宮驛の東北十二町、氷川神社の境内を公園となし、呼んで氷川公園(或は大宮公園)と云ふ、園内には老杉古檜鬱蒼として繁茂し、風致自ら幽雅なり、園内に料理店三四戸あり、中に鐵泉温浴場を設けたる家あり、

該鐵泉は胃弱、腸加答兒、子宮病に效驗ありと云ふ。

氷川神社は官幣大社武藏一の宮にして素盞鳴尊を祀る、神社の附近に見沼川あり螢の名所とす。

大森海水浴

夙に海水浴場として何人も知れる大森は、帝都を距ること僅かに二里に過ぎざれば、夏期炎熱の東都を去る能はざる者半日の餘暇を偷みて此の所に涼をとる者多し。

大森の介墟とて有名なる木原山は此の地にあり、土版、土偶、土器、石斧、石皿等を茲に

發見せしより聞ゆ、大森の西南二十五町にして池上本門寺あり、日蓮上人終焉の地なり、此の寺の南十餘町にして矢口新田靈社あり、南朝の忠臣新田義興の靈を祀る、又太田道灌の歌に「大森と云ふ森の木陰にやすらひて」と此の森は今何處なるや知り難し。

金澤八景

横濱を距る西南四里にして近くは野島、夏島あり、遠くは房總の連山を望む、有名なる金澤八景の在る處なり、所謂八景とは洲崎の晴嵐、瀬戸の秋月、小泉の夜雨、乙櫃の歸帆、稱名寺の晚鐘、平瀧の落雁、野島の夕照、内

川の暮雪是れなり、此の八景を一眸の中に收むる地は能見堂を以て最なりとす、能見堂は禪宗の草庵にして堂の前に古松あり、筆捨の松と云ふ、巨勢金岡が金澤八景を描かんとして畫の眞に及ばざること遠きを嘆じ、筆を擲つて去りたる所なりと云ふ、能見堂の丘を下れば稱名寺あり、審海和尚の開基する所にして、本尊は唐の古佛なり。

金澤海濱は波靜かにして海水浴に適す、金澤より鎌倉迄は二里半、其間切通峠以外は人車の便もあれば、金澤の風光を看て後鎌倉に行くもよし。

武藏國の諸名所

廣德寺 眞言宗にして本堂は大御堂と號し關八州十堂の第一なり、境内の景色佳し。
所澤飛行場 所澤町にあり。
小金井の櫻 櫻花の名所なり。
御嶽神社 此地海拔三千餘尺にして空氣清潔なれば最も避暑に適す。
高雄山 楓樹の名所なり。
川崎大師堂 平間寺と號し眞言宗にして本堂には弘法大師の像を安置す、毎月二十一日には賽人多し。

相模國

鎌倉

新橋より乗車すれば約二時間にして鎌倉驛に達す。
鎌倉附近は七百餘年前、源頼朝が覇を起してより北條氏の占據せし古の大都會にして、歴史上京都、奈良と共に有名なる地なるのみならず、其四時の風光は他に比なくして舞子、明石の關西地方に於けるが如く鎌倉地方は關東の一大公園にして其風致の明媚なるは歴史上の事蹟に富めるにより一層趣味の大なるを

覺ゆ。

鎌倉と云ふ名稱は雪の下、大町、小町等の十數ヶ村の總稱にして現今は東鎌倉、西鎌倉の二村に分つ、南は相模灘に面して遠く大島を望見し、東は連山を隔て、武藏國と界す次に重なる名勝舊蹟を掲げん。

由井ヶ濱 西は靈山岬、東は飯島岬、其間の海濱を稱して由井ヶ濱と云ふ、波靜かにして白沙相連り遙かに富士の秀嶺を仰ぎたる風色の明媚なることは到底筆紙に盡す可くもあらず。

七里ヶ濱 稻村ヶ崎より腰越に至る一里餘の海濱を七里ヶ濱と云ふ、海濱の必ずしも七里

あるを以て此の稱あるにあらず、蓋し此の地方に於ては六町を一里として計算し以て七里ヶ濱と稱するに至りしものか、其風景敢て由井ヶ濱に譲らず、碧波は白沙に映じ、遙かに富士の靈峯の雪際に聳ゆる景、又形容するに言なし。

稻村ヶ崎 是新田義貞が鎌倉を攻めんとする際に巖頭より大劔を海中に投じて勝軍を龍神に祈りたる事蹟あるによりて有名なり。

鶴ヶ岡八幡宮 國幣中社にして、應神天皇、神功皇后、大仲媛の神を祈る、鎌倉驛より四丁にして、八幡宮本社に到るを得可し。

八幡宮は康平六年伊豫守源賴義の建立する

ところにして、其後建久四年に源賴朝現今の地に再建せり、廟を護するに廻廊を以てし、丹碧燦爛として莊嚴なる光景は人目を駭かしむ、境内の正面に神樂殿あり、右方に仁徳天皇を祀れる若宮、源右府を祀れる白旗宮あり曾て義經の妾たる靜が賴朝の前に歌舞せし所は實に此の若宮の社殿なりと言ひ傳ふ、又石階の西側に在る銀杏樹は高さ數丈ありて幹より數乳を垂る、是れ承久元年正月二十七日鶴ヶ岡の別當公曉が實朝を斬殺したる所なりと云ふ。

鎌倉の宮 八幡宮の東北六丁にして鎌倉の宮在り、官幣中社にして大塔宮護良親王を祀る

二階堂ヶ谷の山麓に坐し明治三年の創建に係る、社殿の質素朴なるは以て當時親王の御有様を追想せしめ人をして覺えず襟を正さしむ社殿の背後には曾て親王が足利直義のために幽閉せられ玉ひし土牢あり、窟は地を穿つと一丈餘、其底廣さ凡疊八疊數位にして正面に板圖を設く、凄陰幽寂なる光景は建武の昔を忍ばしめて自ら熱淚數滴頰を下る。

賴朝の屋敷跡 今は一の法華堂を残すのみ、八幡宮の東方金澤街道の傍に在り。

壽福寺 同寺は鶴谷山と號し禪宗に屬す、開山は千光國師にて境内は昔し源賴義、義家東國征討の際に暫く僑居せし所なりと傳ふ、本

寺は鎌倉五山の第三寺にして佛殿には唐の陳和卿作の籠釋迦を安置す、其西松林の背後に畫^{ゑかきやうら}窟なるものあり、中には頼朝の塔、政子の塔在り。

英勝寺 當寺は壽福寺の北隣にありて東光山と號す、もと太田道灌の宅地たりしと云ふ、太田氏英勝院禪尼此處に念佛道場を創立したりしが、中頃絶え、後水戸中納言頼房の息女をして尼となし以て此の寺の開山住持として再興せり、英勝寺は西北に源氏山を貫ひて至極閑靜の境なり。

淨妙寺 當寺は稻荷山と號して鎌倉五山第五寺なり、此の寺に源直義の像あり、又光明院

殿本覺大姊と記したる位牌あり之れ權大納言隆親の室にして足利義氏の息女なり。

建長寺 鎌倉五山の第一を建長寺となす（至徳三年源義滿五山の坐次を定めしに因る）、當寺は建久元年北條時頼の創建するところにして宋の僧丈覺禪師の開祖なり、總門の額「巨福山」の三大字は寧一山の書するところ、世人之れを呼んで百貫點と云ふ。山門は宋の制を採り規模莊大にして其比他になし。

圓覺寺 當寺は鎌倉五山第二にして弘安五年北條時宗の創建にかゝる、寺門又宋制にして佛光禪師の開祖とす、開山塔には佛光禪師の像を安置す、土地堂には伽藍神及代々將軍の

位牌を藏す、祖師堂には達磨百丈臨濟の像を安置す。

長壽寺 當寺は寶龜山と號す、傳へ言ふ昔足利尊氏の邸は此の寺邊に在りしと、尊氏の塔は今尚ほ當寺にあり。

禪興寺 當寺は福源山と號す、蜀大帝、章駝天、北條時宗、上杉重房等の像あり、又祖師堂には大覺禪師、北條時頼の像を安置す。

光明寺 當寺は天照山と號す、記王禪師の開山にして二尊堂には辨財天の像、善導の像あり。

妙本寺 當寺は長興山と號す、日蓮上人の弟子比企大學三郎の創建するところにして、寺

内に比企一門の墓あり。

淨智寺 當寺は禪宗にして鎌倉五山の第四なり、開山は宋の佛源禪師、開基は北條時時なり、開山塔の後なる清泉は甘露の井と云ふ。

長谷の觀音 當寺は海光山と號し、阪東順禮第四の札所にして光明寺の末寺なり、本尊は長二丈六尺の十一面觀世音にして、佛工春日の作る所なり。

大佛 當寺は大威山浮泉寺と號す、本尊の大佛は奈良の大佛と共に日本の二大佛と稱せられ、高三丈五尺、奈良の大佛より小なりと雖も、其容姿の優美、眉目の秀麗なる、鑄造の妙に至りては國中に類なし、昔寛元年間には八

丈餘の阿彌陀の佛像を安置せしも、其後滅亡して建長四年に現在の大佛を作りしなり。
 腰越村 元暦二年源義經平家を壇の浦に亡ぼして鎌倉に入らんとせしに説するものありて鎌倉に入るを許されず、止むを得ずして腰越に居り、辨慶に命じて書狀を兄頼朝に呈せしめ以て寃を訴へしむ、世に此の書狀を腰越狀と稱す、村内に龍護山滿願寺在り、當時義經の宿りし所なりと云ふ。

江の島

長 三 洲

「天女島浮膏一堆。波間山影合還開。螺巖

上着白雲片。知是昨宵爲雨來。」
 江の島は三浦郡の最南端に在る一孤島にして川口村に屬す、周回僅かに十八町に過ぎざれども、其風光の絶大なるに至りては、蓋し湘南中之に肩を並ぶものなし。

江の島は鎌倉よりすれば七里ヶ濱を経て腰越を通りて行く可く、東京よりは新橋より乗車し藤澤驛にて下車し藤澤驛より電車の便を借りて達することを得べし。

江の島は悉く巖石より成り、全島老樹鬱蒼として樹間殆んど日光の洩るることなく、只片瀬に對ふ處稍々平夷なり、其所には旅館、割烹店あり。

島中には日本三辨天の一なる江の島辨天社あり、即ち邊津の宮、中津の宮、奥津の宮と號し、多紀津姫命、市杵島姫命、多紀理姫命を祀り總稱して江の島神社と稱す、廟宇華麗にして廟の天井に畫ける蟠龍は古名家の手になれるものなりと云ふ、此の廟は御旅所にして本宮と稱するは島の南端なる龍穴中に在りと言ひ傳ふ。

奥津の宮より崖を下れば鬼ヶ淵在り、蒼巖削成すること數丈、脚下には激浪の岩礁を打つを見る、其壯絶なること看者をして飽くことを知らざらしむ、此の間數十歩にして龍穴に至る。

(附記) 兒ヶ淵は昔鎌倉相承院の稚兒白菊と呼べる者に自休と云ふ庵主戀慕せしに、稚兒白菊は自休の切なる情に絆されて終に此の淵に身を投ず、程經て自休之れを聞き悲嘆の餘り自身も又此の淵に投じ白菊の後を追ひぬ、因つて後世此の淵を兒ヶ淵と呼ぶ。

龍穴は洞口一丈餘、窟に入ること四十間にして洞道は兩岐となる、一を胎藏界と云ひ、他の一を金剛界と云ふ、洞の奥に大日如來を祀る、又日蓮の坐したる石と稱するものあり、相傳ふ日蓮此の石の上に坐して冥感し法華經

を案出すと。

一度湘南の地に足を入る、者は江の島を訪はざるはなく、東方は七里ヶ濱、由井ヶ濱の海岸に面し、西方は富士を始めとして箱根の諸峯を望み又大磯の海濱を控ふ、南は渺々たる相模灘にして其の風光の佳絶なること恰も一幅の畫を見るが如く、夏期は涼風常に絶えず消暑第一の地なり。

返子と葉山の海濱

返子海濱は水清く浪静かにして、其風景又他に譲らざるが故に近來紳士豪商の別荘年々其數を増し、夏期は特に雜沓すること甚し。

葉山は東宮殿下の御用邸の存する所にして返子停車場を距ること南方一里半なり、近くは江の島大磯の海岸より遙かに伊豆の天城駿河の富嶽を望む風色、心氣自ら潤大なるを覺ゆ、此の地は返子と共に常に避暑に適するのみならず、冬期も比較的溫暖なれば避寒地として指定するに躊躇せず葉山村の附近に秋名山と云ふあり、高さ七百餘尺の小山に過ぎざれども、眺望の廣濶なるは實に千金に値す、遊客の是非一度杖を曳くべき地なり。

茅ヶ崎海水浴

新橋より乗車して約一時間半の後茅ヶ崎驛に

着す、驛より八町にして海水浴場あり、當海水浴場は遠淺にして婦女子と雖も危険の虞少なく海水浴場には屈強の地なり。

茅ヶ崎には茅ヶ崎八景と云ふあり、曰く姥島の歸帆、柳島の落雁、南湖の晴嵐、鳥井戸の夕照、高砂の秋月、眞崎の夜雨、八雲の晚鐘、鶴ヶ峯の暮雪是れなり。

平塚海水浴

平塚驛より南方七町にして海岸に達す、海岸は風景の愛すべきものあるのみならず又海水浴に適す、右には箱根の連山始め伊豆の諸峯を仰ぎ、左は三浦半島を渺茫の際に望観し、

海上には白帆點々として看者飽くことを知らず。

平塚より東方三十町にして有名なる馬入川あり、源を甲斐の山中湖に發して延長凡そ二十里、春夏の候多く香魚を産す、平塚の西方を流る、川を花水川と云ふ、同國雜記に「咲くと見え散ると見ゆるや風わたる花水川の波のしら玉」とあり。

大磯海水浴

大磯は古昔磯郷と稱せし所にして延喜の頃より已に宿驛として知られたり、海濱は白砂奇松相連り、海水浴場として殆んど知らざるも

のなし、此地紳士富豪の別邸境を接し、夏期に到れば料亭は云ふに及ばず闘球場其他の娯樂機關も亦完備し、商賈は軒を列れて殆んど小都會を爲す、帝都其他より集り來る避暑客の數、年々増加し、物價従つて高騰するを以て、學生等の避暑地としては多少不適當の觀あり。

大磁並にその附近の名勝舊跡の重なるものを擧ぐれば、虎子石は延聖寺境内に在り、曾我祐成大磯の白拍子虎の家に泊す、工藤祐經、祐成を討たんとして間者を其家に使はし、祐成を射さしむ、其箭石(虎子石)に當りたるがため祐成無事なるを得て遂に其の本懐を果す

ことを得たり、祐成の死後、虎此石を愛し、後此れを延聖寺に納む、鴨立澤は大磯驛の西に在り、西行法師が、心なき身にも哀は知られけり鴨立澤の秋の夕暮と詠みし古跡にして眺望に富む、國府址は大磯の西二十四町余、大寶年間此所に相模の國府を置きし舊址なり、高麗山は老樹繁茂し、幽雅掬すべき仙境なり。

國府津海水浴

箱根、熱海、小田原方面へ行く旅客は是非國府津を通過する必要があるが故に此の地は四時共に繁榮す、國府津海濱は常に波高ければ

婦人小兒の海水浴には不適當なるべし。

海濱の小丘唐澤は昔親鸞上人が唐土より一切經を携へ歸りし時に着船せし所なりと傳ふ國府津の北凡一里にして中村と云ふあり曾我兄弟の故郷にして其舊跡少からず。

酒匂と小田原

酒匂は國府津と小田原との中間に位し國府津を距ること僅々二十餘町にして電車の便あり。酒匂は飲用水清く、空氣清潔、東南は相模灘に面し、青々たる松林中より海上の風光を眺むれば涼氣自ら催し心神の爽快言はんがたなし、海水浴場は酒匂川の海に注ぐ東岸に

在り。

小田原は舊大久保氏の城下にして、國府津より電氣鐵道の便を借りて達すべし、此の地四時共に静養地として良好なるが故に近時貴紳の別邸漸次増加す。

小田原附近の名勝舊蹟には小田原城址あり城内に二宮尊徳翁の靈を祀れる報徳神社あり又大久保神社あり、之れ舊城主大久保氏を祀れるものなり、其北に梅花の名所なる小峯梅林あり、花時は墨客の杖を引く者多し。

箱根温泉

「箱根八里は馬でも越すが……」と馬子唄

に云へるが如く小田原より伊豆三島に至る上
下八里の箱根峠は昔時關西より關東に至る難
所にして、徳川時代は此の地に關所を設けて
通行者を嚴重に取締り、時變り星遷りて現
今は山腹に墜道を掘り抜き婉々たる長蛇は旅
客の夢を乗せて過ぐるに至り昔時の面影を留
めざれども今や鎌倉地方と共に東都の一大遊
園と化せり。

箱根は古來温泉地として其名高く、昔は箱
根七湯と稱せしが、現今は重なるもの十二湯
あり、湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ島、底倉
木賀、小湧谷、蘆の湯、湯の花澤、強羅、仙
石原、姥子是れなり、而して宮の下を中心と

して互に繁榮を競へり。
湯本温泉 湯本は國府津を距ること三里、國
府津より電氣鐵道は酒匂、小田原を過ぎ約一
時間にして此の地に達す。

湯本温泉は早川の沿岸、箱根群山の東麓に
在り、温泉は金泉湯とも云ひ、湯坂山麓の岩
罅より湧沸し、所々鐵管を架して毎家の浴槽
に湛ふ、泉質は單純泉にして少しく鹹味を帶
び常に攝氏四十四度を保ち冷温五體に適す、
湯は湯槽を溢れて清潔云はんかたなく、且之
れに加ふるに山光水色の幽趣を以てす。

湯坂山の麓に珠簾の瀧あり、湯本浴客にと
りては唯一の遊覽地なり、瀧は高さ十間、幅

五六間、前方より望めば水晶の大簾を懸けた
る如く、珠簾の名を誣ひざるなり、湯本の西
南に金湯山早雲寺あり、北條早雲の創立、大
隆禪師の開基なり、寺内に北條氏五世の墳墓
あり。

今湯本より各地への里數を示せば次の如し

- 湯本より 國府津へ 三里。
- 同 小田原へ 一里廿二町。
- 同 塔の澤へ 五町。
- 同 堂ヶ島へ 一里半。
- 同 宮の下へ 一里半。
- 同 底倉へ 一里廿町。
- 同 木賀へ 一里卅二町。

同 蘆の湯へ 三里廿町。

同 箱根驛へ 二里廿八町。

同 姥子へ 四里廿二町。

塔の澤温泉 湯本より早川の流域に沿ひて山
中に歩を移すこと五町にして塔の澤温泉に至
る、早川は土地の中央を貫きて玉緒橋其上に
架し、四面巖石にして恰も屏風を立て廻はし
たる如し。

湯は湯坂山と勝驪山とより湧き出づ、泉質
は湯本温泉と同質、少量の鹽分を含有し、透
明にして無臭なり。

宮の下温泉 宮の下温泉は底倉村宇宮の下に
在り、塔の澤より坂路を登ること一里半にし

て至る、箱根諸湯の中心にして最も繁榮なり。
 宮の下は海拔千百餘尺の高地にして、明星
 ケ嶽地藏山等起伏し、早川の溪流其間を貫通
 し、三方山を以て圍繞せらる、而して東方山
 の稍々盡くる處より相模灘を望む、其山容の
 美、水色の麗、蓋し箱根十二湯中の冠たるも
 のならむ。

泉質は弱性鹽類泉にして、鹹味を帶び、温
 度は攝氏八十一度より四十六度の間にあり、
 夏期に至れば外國人の此地に來遊する者非常
 に多く、宛然居留地の一部を移せしが如し。
 底倉温泉 底倉温泉は底倉村字底倉にあり、
 宮の下の町續きにして、北方は早川を隔て、

明星ケ嶽に對し、南方は蛇骨野小地獄に連り
 西方は蛇骨川の崖に接す、温泉は蛇骨川の右
 岸より湧出す、泉質は宮の下と同じく弱性鹽
 類泉にして、温度は攝氏七十二度より四十三
 度迄の間にあり。

蛇骨川の上流の地に於て白蛇の骨に似たる
 奇石を得ることあるを以て之を蛇骨川と稱す
 るに至りしと云ふ、萬年橋を渡りて木賀に通
 ずる舊道に至れば右に白鷺の瀧あり、其傍に
 太閤風呂あり、昔豐臣秀吉此地の温泉の奇效
 あるを聞きて之に浴せしと云ふ。
 堂ヶ島温泉 堂ヶ島は底倉村字堂ヶ島に在り
 宮の下を下ること五町にして至る、土地低濕

にして楯盆の底の如く、綠樹鬱々と繁茂して
 日光を遮り遠望の觀に乏しと雖も、翠綠滴る
 許りの樹影は自ら涼氣を催して炎暑焼くが如
 き時も初秋かと疑はる。

温泉は三ヶ所より湧出し、夢想湯、薬師湯
 神仙湯と云ふ、泉質は單純泉にして温度は攝
 氏四十七度内外なり。

木賀温泉 木賀温泉は底倉を距る四十餘町、
 早川の西岸に位し、仙石原村字木賀に在り、
 海拔千七十尺、後面に丘陵を負ひて山光水色
 共に賞すべきものあり。

泉質は鹽類泉にして、温度は攝氏三十八度
 乃至四十五度なれば體温に適す。

仙石原温泉 當温泉は最も陋隘にして、他の
 諸湯より劣るが故に遊客の來る者稀なり。

強羅温泉 當温泉は近來新に開きし所なれど
 も、四境の幽靜なると物價の低廉なるとの二
 點は他の諸湯に優る。

姥子温泉 大湧谷の物凄き境を過ぎて西蘆の
 湖の水光を望みつ、坂を下れば、湖岸を距る
 五町許りにして姥子温泉場に至る、此の温泉
 は特に眼病に效驗ありと稱せらる、故に浴客
 は多く該患者にして遊覽者は稀なり。

小湧谷温泉 宮の下より蛇骨川に沿ひて山を
 登ること半里にして小地獄山の麓に位する小
 湧谷の温泉場に至る、當温泉は蒸氣を沸騰す

るが如く小地獄山の半腹より湧き出づるを樋にて之れを各浴槽に導く、泉質は酸性收斂綠礬泉にして色は蒼灰色、臭氣は敗卵の如し、
敵毒、皮膚病に特效ありと云ふ。

此の地海拔二千百尺、涼風常に習々として來り盛夏の候尙は秋の如し。

蘆の湯溫泉 箱根諸湯中最も高所に位し、海面を抜くこと實に二千七百尺、地は駒ヶ嶽の東麓二千山の北にありて東北の方稍々開く、泉質は多量の硫黄を含有し、濁色にして硫黄の臭氣あり。

湯の花澤溫泉 當溫泉は近來の開場にかゝり花の湯と稱す、此の地蘆の湯溫泉と共に土地

高燥なるが故に、避暑地として適當なるは言を俟たず、當溫泉にては湯の花を採りて乾燥し之れを四方に發賣す。

蘆の湖 箱根湖のことにして、一に鏡宇池と雅稱す、東西二十町、南北一里二十三町、周圍四里三十町、形恰も瓢の如し、西方遙かに富士を望みて其形影は時に湖上に映寫す、之れを箱根の逆さ富士と稱す、湖水の四顧は蒼茫悠然として、其風光飽くことを知らず、舟を僝うて湖上に浮べば、身は仙境にあるが如し。

湖中の塔が島には離宮在り、又湖畔には昔時の宿路箱根驛在り、今は昔の面影を有せず

して、唯だ夏時避暑客の來遊するを見るのみ。

安房國

館山と北條

館山は館山灣の東南隅に位し、北條とは僅かに二十五町を隔て、相隣す、館山灣は一名菱花灣又は鏡ヶ浦と稱す、灣内水深く大船を泊するに足る、東京との交通機關は唯一東京灣汽船會社の航路あるのみにして未だ鐵道の便なし。(靈岸島、館山間は一日五回)

館山は夏期の靜養地に頗る適し、殊に館山灣は水清く波靜かにして、天氣晴明のときは

雲外に秀づる富士の靈峯を望見し、海上には白帆點々として、遠きは動かざる如く、近きは駛りて飛鳥の如し、其風光明媚なる又一個の仙境なり、灣内には古松宵々たる二小島あり、東方に在るを鷹の島、西方に在るを沖の島とす、共に周圍七八町に過ぎざれども眺望は極めて廣潤なり、小舟を僝ひて一遊を試みるも亦妙なるべし。

館山の北十五町を隔て、北條海水浴場あり風光の明媚なる致て館山に下らず、且物價廉なるを以て夏期は學生の浴客を以て滿さる。

北條の北方一里にして那古町在り、有名な那古寺は僧行基の開基に係り、本尊は十一

面觀世音にして行基の作なりと云ふ、那古町より西方廿餘町なる船形村には大福寺（一名船形觀音）在り、慈覺大師此の寺を開く。

暖町海水浴

暖町とは北朝夷、南朝夷、平館、忽戸等の總稱なり、前面は渺々際限なき太平洋にして、背面は暖山の小丘相連り、海中には奇巖兀立し、海水浴場として館山北條に勝る、唯だ交通不便にして僅かに北條とは一日一回馬車の往復するあるのみ、然れども土人質朴にして物價又頗る低廉なれば學生の避暑には恰好の地なりとす、又千倉には千倉鑛泉あり。

此地漁業隆盛にして、幾百の漁舟諸方より來集し、海上數哩の沖に浮漂する狀夜間之れを望めば宛然不夜城を現出し、其壯觀なること紙筆に盡し難し。

暖町より南方二里半、館山町より三里餘にして白濱村あり、白濱は前に太平洋を控へ、後は老樹鬱々たる小丘を負ひ、遙かに伊豆群島を雲間に望む、海岸は岩石屹立し、太平洋の激浪之れに衝りて白粉々たる雪片を散らし壯觀云ふべからず、白濱村の西南十五町にして有名なる野島崎在り、海中に突出すること三町、日本三大燈臺の一たる野島燈臺は巖上に屹立す。

根本海水浴

根本は館山より三里、人力車の便を借り二時間にして達す、此の地は海洋を隔て、遙かに伊豆七島を望み、海水清澄なれば近來海水浴場として漸く知らるゝに至れり、交通不便の弊あれども物價の低廉なると、土人の質朴にして親切なるとは、此の缺點を補うて餘あり。

鴨川町と天津町

鴨川町は暖町より北方六里の所に在り、鴨川河口に位し、南方は太平洋に面し、名高き仁左衛門島前方に横たはる、其風景佳にして物

價又低廉なり。

千葉縣の漁業盛んなるは世人もよく知る所而して天津は銚子と共に有名なる漁場とす。

天津の北一里半にして清澄山在り、山中の清澄寺は頗る眺望佳なり、又日蓮上人の誕生地として著名なる小湊山誕生寺は天津より一里を距る湊村大字小湊の山麓に在り、小湊山の東北なる海中四五町を妙の浦（今は訛りて鯛の浦と稱せり）と云ふ、相傳ふ昔日蓮上人此の浦にて漁獵をなすことを禁じたりと、土人今に至るも其禁制を固守し、之れを侵す時は大禍ありと云へり、故に四方より鯛類群集し來り波間に游泳す、奇觀なり。

天津に至るには海路よりすれば東京勝浦間の汽船に依り、陸路よりすれば兩國驛より大原行に乘車し、大原驛より勝浦迄馬車の便を借り勝浦より七里にして達す。

上總國

一の宮海水浴

一の宮は東上總第一の都會にして兩國驛より乗ずれば二時間にして一の宮驛に着す。

一の宮は太平洋に面し、左方一帶は九十九里ヶ濱に接して遠く銚子の犬吠岬を望み、南方は大東岬あり韃靼たる波濤の響は颯々たる

松風と相和し涼氣自ら來る、此地避暑避暑共に適し海水浴場は近頃設けられしものなり。

一の宮及附近の名勝舊蹟には、官幣中社玉前神社在り、觀月の名所にして、玉依比賣命を奉祀せり、一の宮城址は町の西なる山上にあり、俗に城山と稱す、觀明寺は玉崎山と號し、天平七年行基菩薩の開基にかり天台宗に屬す、又八積村なる皮部の松は形狀恰も蟠龍の如く實に奇なり。

九十九里濱

小野湖山

「烟霧晴來露漙漙、郊原盡處接滄溟。」

て茲に説く。

大東海水浴

一の宮驛の次驛を大東とす、海水浴場としての大東岬は其壯大なるを以て聞ゆ、大東岬は遠く下總犬吠岬と相對し其間は即ち九十九里ヶ濱なり。

東浪見村の釣ヶ崎は大古彦火々出見命が釣を垂れ給ひし舊址なりと傳ふ、又此所には東浪見寺の奇勝あり、山頂より東方を望觀すれば、一碧の海洋は脚下より廣がり、巖石に激する白浪は雪かまがふ光景の壯絶なることは言語に絶す、又釣ヶ崎の傍に在る山を音信

梁川星巖

「海勢勾連上下總。千家曝網夕陽風。行々

九十有九里。一路潮聲松影中。」

銚子の犬吠岬より上總大東岬に至る一體の海濱を稱して九十九里ヶ濱と云ふ、(六町一里を以て算するときは其延長に達す)長汀曲浦の白砂を踏み、水漂渺として涯なき太平洋を望む時は、身の俗界に在るを忘るべし。

九十九里ヶ濱の沿岸には、光明寺、勝覺寺、失指神社在り、又沿岸は有数の漁業場にして鱒漁を以て聞ゆ。

(附記) 九十九里濱は上總、下總の兩國に

跨れども汽車の便、上總にあるを以

山と謂ひ、別名を鳴山と稱す、其山腹に立ちて耳を聳つる時は、波濤の反響は恰かも百雷の墜つるが如し、故に土人鳴山と呼ぶ、其他大東附近の勝地には般若寺、鷗島、飯綱寺等あり。

大原海水浴

房總線の終點を大原驛とす、太平洋に面する壯大なる風光は、決して大東に譲らず、而して土地幽遠清雅なれば、夏時の静養地に適す。

大原より勝浦迄は四里にして馬車の便あり勝浦は漁場として聞ゆ、勝浦と大原との間に

岩井山最明寺あり、同寺は昔北條時頼が諸國行脚の途次、此地に一宿せるより其名あり。

下總國

稻毛海水浴

兩國驛より津田沼、幕張等の各驛を経て稻毛驛に着す、同驛より十町にして海水浴場在り。稻毛の海水浴は近來多少衰微せるの觀あれども、東京より近く且交通の便良ければ此地に行く者少しとせず。

香取神宮

香取郡香取村に在り、東國三社の一として昔より其名高し、上野驛より乗車し、我孫子驛にて佐原行に乗換へ、終驛なる佐原にて下車す可し、佐原より一里にして香取神宮に至る

當社は神武天皇の御宇十八年の創建にして經津主神を奉祀し、武甕槌神、天兒屋命、姫神を合祀す、古來より軍神として皇室の崇敬せらるゝこと深く、遠近より賽人來集して前殿常に影を絶たず、苑内の莊嚴幽邃なるは思はず人の襟を正さしむ。

成田山新勝寺

兩國驛より乗車し佐倉驛にて成田線に乗換ふ

るか、又は上野驛より我孫子驛にて佐原行に乗換へて成田驛に下車するか、何れにても便宜を取る可し。

新勝寺は有名なる成田の不動堂にして、成田町本宿の道北山腹に在り、安んずるところの不動尊は長け六尺にして、弘法大師の彫刻なりと傳ふ、堂宇は結構壯麗を極め、寺境は老樹鬱蒼として森嚴なり、實に我國屈指の靈場なり。

銚子海水浴

兩國驛より五時間にして銚子驛に着す、銚子港は我國東海岸の要港にして港頭は岩礁多く

砂高く、大船を泊せしむるに適せざれども、附近數十里間に良港なきを以て、自然樞要の港たる地位を占む。

銚子町を出て、飯沼山圓福寺を過ぎ、一里餘にして白色に塗りたる燈臺の中空に聳ゆるを見る、之れ本邦の最東端なる犬吠岬の燈臺なり、茲より東南三四町にして海水浴場在り浴場の存する所を西明浦と云ひ前は漂渺限りなき太平洋に面し、狂波怒濤常に絶えず、青春の浴客をして、快哉を叫ばしむ、背後には小丘連続し翠綠滴る許りの松林ありて涼風常に習々として来る。

下總國の諸名所

千葉寺 坂東三十三所の一にして櫻花の名所なり。
宗吾靈堂 義民木内宗吾を埋葬せる地なり、大法會は毎年八月三日を以て之れを修す。
印旛沼 東西二里、南北七里の大沼にして、沿岸の風景佳なり、殊に平賀よりの眺望を以て最とす。
眞間弘法寺 日蓮宗に屬し、池上本門寺の末寺にして六門家の一なり。
稱名寺 眞宗にして關東七ヶ寺の隨一なり。

常陸國

土浦と霞ヶ浦

上野驛より約二時間にして土浦驛に着す。土浦は霞ヶ浦の西岸に位し、前に霞ヶ浦の眺望を控へ、遙かに日光の諸山を見る、近くは筑波の山容に接し、其清雅の風景は恰も一幅の墨畫に似たり。

筑波山は筑波郡の北境に位する名山にして海面を抜くこと三千二百尺、峯は男體、女體の二に分れ、遠く望めば馬耳の雙び立つるが如く、旦には藍を挽き、夕には紫を凝す、山

關八州

容峯姿常に同じからず、古來騷客の賞譽措かざるところなり、頂上に筑波神社あり、兩峯に分祀す、一を男體の祠と云ひて伊弉諾尊を祀り、他の一を女體の祠と云ひて伊弉册尊を祀る。

土浦は陸上に汽車の通ずるあり、湖上には銚子、佐原、潮來等の諸地方へ一日幾回となく小蒸汽船の往來するありて、水陸の便兼備せるが故に、此の地に三伏の苦熱を避くるもの多し。

霞ヶ浦は東西七里十町、南北六里二十六町、周圍三十四里十七町を有し、琵琶湖に次ぐ大湖なり、而して湖岸の風景の優秀なる地多き

は人も知る所なり。

「櫻川瀬々の白波しげければ霞うながす信太の浮しま」と紀貫之が詠じたる浮島は湖中の一小島にして信太郡に屬す、島上には小丘起伏し四面の眺望悉く妙ならざるはなし、其他沿岸勝地の重なるものを擧ぐれば沖宿には駒ヶ峰觀音あり、三峰神社あり、木原には木原城址、阿彌神社、永嚴寺あり、江戸崎町には不動院あり、浮島に至るには此の地よりするを便利なりとす、牛渡には鞍掛の松あり志戸崎には藍見觀音あり、井上附近には西蓮寺、玉清井あり、麻布近傍には香澄山、天王崎、三好公園、牛堀には能見神社ありて、其

他勝地舊址數ふるに遠あらず、一簣一笠以て夏期遊覽の杖を曳くに宜し。

霞ヶ浦の沿岸に湖來町あり、稻荷山、長勝寺、地藏河岸、湖來十六島等の勝地を有す、又獨り其風光の佳絶なるのみならず、往時より朝夕出入する舟客を呼び迎ふる遊女町あるを以て名あり。

鹿島神宮

同神社は鹿島郡鹿島町の中央に在り、神武天皇の御宇元年の創建に係り、主神は武甕槌神にして之れに經津主神、天兒屋命を配祀す。苑内の風致は神さびて頗る幽邃なり、神宮

の周圍を繞れる丘陵を御笠山と云ひ、頂上に御笠神社あり、古へ武甕槌神降臨して國內の兇賊を討ち御兜を埋め給へる所なりと言ふ。

水戸借樂園

上野驛より三時間半にして水戸驛に着す、驛より西方約廿町を距てて、日本三公園の一なる常磐公園在り、面積約三萬坪を有する一堆の丘陵なり、天保年間水戸烈公此地を遊息所と定めて土工を起す、明治六年に至り公園とせらる、近くは仙波湖の碧境を眺め、遠くは筑波の紫翠を仰ぎ、園内又四時の花卉を絶たず往時烈公が借樂の席に充てられたりと云ふ

好文亭、樂壽樓は今尚ほ舊觀を存し瀟灑なり。

大洗海水浴

大洗海水浴場は東茨城郡磯濱町那珂川河口にあり、上野より水戸行に乗り、水戸驛にて下車し、其れより三里二十五町の間人力車の便を借れば大洗に達することを得、又水戸より祝町(磯濱町の小名)迄は小蒸氣船一日數回の航行をなす、而して祝町より大洗迄は二十餘町なり。

大洗は海波渺々たる鹿島灘に面し、背後は蜿々たる丘陵を負ひ、海岸は松林の蒼老、白沙と相映じ、波際には奇岩怪石屹立して激浪

と相闘ひ、其飛沫は吹雪の如く、其音響は遠雷の如し。

海岸に沿ひて大廈高樓軒を連れ、樓上の眺望は廣濶にして自ら快哉を叫ばしむ。

海水浴場の後山に大洗磯前神社あり、大巳貴命と少彦名命を合祀す、其他鬼洗の澤、琴引の瀧、烏帽子岩、磯濱八景等の勝地在りて雅客の賞譽措かざる所なり。

水戸烈公

「萬世を松に契りて今日までは子の日の松にひかれきにけり」

助川海水浴

助川海水浴場は水清く、空氣清澄にして避暑靜養の地として尤も良好なり、上野驛より乗車し水戸驛を経て助川驛に着す、驛より數歩にして海濱に出づ。

助川は俗に東海岸第二の大磯なりとの稱ありて近來四方より來り浴する者非常に多く、其風光の明眉なること敢て大洗に譲らず。

川尻及平潟附近

汽車は助川驛を過ぎて川尻驛に着す、海水浴場は同驛より約二十町なり、萬里の海洋を展望し、潮勢緩和なれば、婦人小兒の浴者には頗る適し危険の虞少なし、川尻附近の名勝に

咲く山櫻かな

小八條 御息所

「立ちよらば陰ふむはかり近けれど誰か勿來の關をすまけん」

源 師 賢

「東路はなこそその關もあるものをいかでか春の越えて來つらん」

上野國

伊香保温泉

上野驛より三時間餘にして前橋驛に着す、前橋より電氣鐵道の便を藉れば伊香保温泉に達

源 義 家

「吹く風をなこそその關と思へども道もせに

は牛浦、赤見壑の眺望、川尻八景、又日本三大師として有名なる妙高山法鷲院等あり、之れ等は遊覽者の見逃す能はざる勝地なり。

芭蕉がこのあたり目に見ゆるもの皆涼しと嘆美したる平潟港は關本驛を距る十四町、三方山を以て圍繞せられ、一方は海洋に面し、其山光水色の優秀なること濱海道第一なるべし。

名高き勿來の關址は勿來驛を距る十數町、峯巒三方に群がり蒼海脚下を遶る、眞に天險の地と云ふべし。

す。

伊香保温泉場は山の中腹を拓きし處なれば南に山を貫ひ、西は溪に臨み、唯だ東北の一方のみは平夷なり、家屋は概ね嶮崖に築かれ居るを以て、甲樓は乙樓の屋上に、丙樓は乙樓の床と相對し、其狀恰も階梯を斜に立掛けたるが如し。

温泉の湧口は市街の南方の溪間中に在り、之れを樋に依りて各温泉宿の浴室に導き、其溢れ落つるもの泉となり泓池となり更に小溝を走りて路傍を流る、温泉の質は純粹なる炭酸泉にして色稍く赭赤、臭氣無し、效能は胃病、僕麻質斯、白帶下、月經不順、貧血性、

皮膚病、神經痛等なり。

尙ほ温泉は消暑、避寒、靜養に適するが故に四季共に四方より浴客群集して非常の繁榮を呈す。

伊香保附近の名勝舊跡には伊香保神社在り伊香保市街の南端に位し大己貴命を祀る、物聞山は市街の東南にある小丘にして俗に金比羅山と稱す、郭公の名所にして山中よりは伊香保全町を双眸の中に收む、所謂伊香保八景の一なり、船尾山は伊香保より東南一里半、古昔傳教大師の開基せし巨剎の存せし所と聞けども今は唯だ荒野の中に其遺址を止むるのみ、山中に船尾の瀧あり、直下二十丈、幅

二間、烟の如く霞の如く飛沫を生じて近接すべからず、箕輪の城址は船尾山の南に在り、大永年間長野伊豫守信業の築く所にして弘治永祿年間に武田信玄此城を攻め落すに五年を要せりと云ふ、又伊香保の南方二十五町に二嶽の蒸氣風呂と云ふものあり、山麓の砂地より蒸氣を噴出す、其實は不詳なれども硫黄の氣を含む、病客此の地に來り體を蒸す者あり御影の松は澁川町より伊香保に來る途上にあり、曾て、英照皇太后陛下の御小憩遊されし所、碑ありて歌を勒す。

「芝中の松の宿りに千代かけて残るは君が御影なりけり」

其他伊香保附近の勝地には伊香保富士、伊香保沼、榛名山等あり、浴客の是非一度は訪ふべき地なり、此等に就ては便宜上左に譲る。

上毛三名山

赤城山 赤城山は大間々驛より西北方五里半前橋驛より東北六里半、東京より行くには前橋驛に下車するを便とす、前橋より小暮村迄は人力車の便あり、小暮村より絶頂迄は尙四里の道程にして加ふるに坂路も嶮峻なれば是非共草鞋を用ふ可し。

小暮村より行くこと二里にして硯石山を右に望み、左に鍋割の峯を望む、此の鍋割峯は

と數十歩、巨巖あり、鞍掛岩と云ふ、其形天然の岩橋の如く又馬の鞍に似たり、更に樓門あり、門の下、石磴數十級、磴を挟んで御師の家あり、乞へば旅人を宿せしむ、又茶亭ありて飯酒を賣る。

榛名山は奇巖怪石に富み老樹鬱々と繁茂して晝尙暗く、鬼氣人に迫まる、然れば炎暑の時にて此地は老鶯鳴いて止まず又不斷の鶯聲を聴く。

妙義山 信越線松井田驛にて下車し、碓氷川を渡り妙義山麓に至る。

妙義山は北甘樂郡に屬し、白雲、金洞、金鷄の三山より成る、三山みな巖石にして、滿山

古杉老楓多く、四時の風景に富む、就中秋期の紅葉は一頭地を抜く、山の北麓に一小村あり、妙義町と云ふ、此の町より登ること數町にして妙義神社あり、祀神は日本武命なり、社殿を繞らすに巖石老樹を以てす、されば一層威嚴を加ふるを覺ゆ。

金洞山は一に中の嶽と稱す山中奇巖を以て充たさる、妙義神社の手前より左りに折れて山路に掛る、進むに従ひ險阻漸く加はり道幅亦狭く凡そ十三町にして中の嶽一の鳥居あり尙進むこと數町にして第一石門の聳ゆるを見る、其高さ五丈許り、濶さ一丈餘、天然の關門を形成す、人をして巨靈の奇を弄するに驚

かしむ、是れより坂路益々急にして登ること頗る困難なり、第二石門に至る、大きさは第一石門の三分の一位なれども巖奇は倍す、人は鐵鎖に依りて其下に到るを得べし、次に第三石門あり、門は横に濶し、尙ほ登りて第四石門あり、而して其れより上へは嶮岨極まる

を以て登りし者稀なりと云ふ、土人曰く山中には石門の數幾許なるやを知らず、而して人の知るもの十數個に過ぎず、其最も奇なるものは金鷄山に在りと。

上毛三山共に奇巖の豊富なるを以て普れく人に知らる、就中妙義は最も之に富むものなるべし、其石門の奇妙なるに至りては看し者

をして天然の妙技に驚かざるを得ざらしむ、惜哉第四門以上は其奇景を知る者甚だ少し。

磯部 鑛泉

信越線磯部驛は鑛泉場の所在地なり、北には碓氷川流れ西には妙義山嶺々として聳え、風光佳なりと雖も、土地高燥ならず温泉場としては伊香保草津等に數等を譲る、唯だ磯部の長所は交通の便なるにあり、泉質は炭酸泉にして冷温を沸かして入浴せしむ、各温泉宿には冷温の二槽を備へ以て客に供す、附近の壱址として擧ぐ可きは佐々木盛綱の城址と其墓(松岸寺内)及赤穂淺野の家臣大野九郎兵衛の

幕等なり。

澤渡温泉

澤渡温泉は吾妻郡澤渡村に屬し、前橋市を距る西北十一里半なり、前橋より澁川迄は電氣鐵道の便あり、澁川より中之條迄五里半の間は乗合馬車往復す、中之條より人力車の便を借るが、或は歩行するかの二途なり、澁川よりの道順は金井を過ぎ南牧に至り北牧を経て中之條に着す、中之條より原村に至り尚行くこと二里にして澤渡に達す。

澤渡温泉場は土地高燥にして海面より高さ事二千三百尺、三面山嶽を以て包圍せられ、

唯東南稍開きて四萬川に接す、此地は眺望に富むとは言ひ難し、されども暑さを避くるには至極適したる地にして、寒暖計八十度以上に昇らず、夜に至れば酷暑の時も六十三四度に下降し其氣候秋の如し。

泉質は硫黄泉にして胃病、皮膚病、腺病、敵毒、神經衰弱者に特效あり。

澤渡には澤渡八景の選、天神山、薬師山の公園等名高し。

四萬温泉

四萬温泉は吾妻郡四萬村に在り、前橋を距ること十三里半、中之條より四里にして到る。

泉質は鹽類泉に屬し、效能は皮膚病、癩麻質斯、胃弱、貧血性に宜しと云ふ。

四萬温泉より數町にして日向温泉あり、此地は前面に水晶山を望見し、大泉小泉と稱する瀧ありて其眺望捨つべきに非ず、故に四萬の浴客は此の地に散遊するを常とす、其他附近には小倉の瀧、廢谷瀧、蠟石山等あり。

川原湯温泉

當温泉に至るには中之條より四萬温泉に至る道と岐れて原村に至り、原村より四里弱にして達す。

交通不便の温泉場なれども、皮膚病腫物に

奇效ありと傳ふるを以て、此の種の患者遠近より來る者多し、泉質は硫黄泉なり。

草津温泉

草津温泉は吾妻郡草津村大字草津に在りて上野の國の東北端に位す、地勢桶盆狀を爲す、四方小丘を以て圍繞せらる、海面を抜くこと四千五百尺なるを以て、略ぼ其氣候を知るべし、此地交通不便にして前橋を距る十八里二十町、澁川、中之條、澤渡を経て當温泉に達す。

草津温泉の由來は遠く、元正天皇の御宇、大和菅原寺の行基尊者、東國遊歴の際に薬主

如來の示現に依り當地に來りて溫泉を發見すと、又建久年間源右府淺間山に狩獵する時、營を上毛三原に置く、狩獵終りて後ち附近の山野を跋渉し、遂に此の地に來り溫泉在ることを知りて乃ち浴す、後ち上毛の郷士細野幹久に湯本の性を賜りて此の溫泉を守護せしむ、此時に源右府が浴せしと云ふ溫泉今尙存して之れを御座湯と名づく、其湯の側面にある石を御座石と稱し、石上に頼朝の小祠を安置す、降りて天正十五年の夏近衛龍山公此地の溫泉に浴せらると、以て草津溫泉が古くより世に知られたるやを知るべし。

溫泉の湧出する所は數個ありて最も大なる

ものを御吸上の湯と稱し、湯壺縱横五間、其前面より溫泉滾々として噴出す、其他御座の湯、熱の湯、和志の湯等あり、尙各溫泉宿の庭前に湧き出づるもの其數を知らず、泉質は無色透明の強酸泉にして、效驗は關東第一と稱せらる、特に癩疾、經久徵毒、先天遺毒、血液變敗等に效ありと云ふ。

(注意) 草津溫泉は多量の硫酸を含有するが故に病に依りては效驗著大なりと雖も、無病者には酸性強きに過ぐるを以て往々湯中りと稱する浴熱病に罹ることあり、故に此の溫泉に浴する人々は最初旅宿の主人に問ひ合せ

て始めより強酸の湯に浴せぬやう注意すべし。

草津溫泉は海魚には乏しけれども鰻、鯉、鮒、鮎、牛肉、小鳥等は豊富なるを以て事を缺かず。

草津附近の勝地には常布の瀧あり、草津より志武嶺に至る途上に懸る、高さ十二丈、恰も白布を懸けたるが如し。

堯 惠 法師

「世に知らぬ布ならなく山姫のいかに晒せる瀧のしら糸」

岡山は吾妻郡の郷社にして日本武尊を祀れる白根神社の社地なり、此の地は魏月の名所と

す、白根山は草津の西方三里にして海拔六千五百尺、頂上の眺望は廣大明媚にして信、甲野の諸峯を眼中に收む。

下野國

日光山

上野驛より日光行きに乗車すれば五時間にして日光驛に着す。

諺に曰く日光に躋らざれば未だ與に結構の美を語るに足らずと信なる哉言なり、蓋し日光は山水の明媚絶佳なると其廟社の結構壯麗なるとは天下是れに優るものなく、實に帝國

を代表する勝地なり、然れば諸外國人の我國に來るや先づ日光山を訪ふを常とし、其人巧の精華と自然の瑰麗とを賞讃して止まず左に大村桐陽の日光山紀行を録して其の一斑を示さん。

日光山。 大村 桐 陽

日光の北山は越に連なり東は奥に接し重繞嶮巖窮極有ること靡し、而して明湖大瀑多く之れに加ふるに巖石峻絶にして涓流細泉も亦皆な觀る可く實に天下の名區なり。

(中略)

馬回溪。 七月十三日、日光山麓に抵りて逆旅に投じたり。(中略)翌朝輕装して行く

こと二里許り黄茅茨畦多く大麻を種ゆ之れを馬回の邑となす、險其の名に稱ふ、銅華表あり巍然として溪濱に建つ、怪石譎詭奇醜百出水其間に錯流す、水流れんと欲して而して石の逆折する處となり湍險激怒し雷吼龍踊す、而して兩岸の山刻削對峙し岩石倚壁拆裂して崩れんと欲す、溪上兩木を架し柴を其上に布き以て橋となす、水勢奔逸橋兀々として搖ぐ俯して之れを窺ふに水紺青色をなす、或は崩れて雪の如し、橋を過ぐるもの二地藏堂在り徑廡下を通ず、此れより廿六七町にして(中略)右に二瀑の對懸するを見る、小なるものを方等瀑となし、

大なるものを般若瀑となす、合流して椽下に至り濛々として聲有り指顧之際棧之危きを覺へず、遂に不動堂に至る、是れを絶頂となす是に於て馬回の險始めて盡く矣。

華嚴瀑。 不動堂を過れば則ち路坦夷にして砥の如し、岐あり榜して華嚴瀑と曰ふ、榜に循うて而して左す、林木疎冷石松に寄り長さ或は四五尺樹之古知るべし、忽ち瀑聲轟く如きを聞く、魂飛び足躍りて進んで山麓に至る、對岸の山巨瀑懸る焉。而して長さ僅かに瀑身三分之一を見る深草中に一徑を得縋に通行すべし、急に擔を擲ち石角を擇んで趾を投じ却歩して而して下る、後

人の足正に余が頭上にあり、山腹に至て路窮まる、乃ち胸腹地に貼し手樹を援き頭を延して之れを瞰始めて瀑の全身を觀る、直下五十丈許り聲勢地を震ひ破碎體擾雪之崩る、如く絮の漂ふ如し、瀑之兩崖は巖壁立積蘇之れに被り綠潤溜ふ如く瀑底は石出でて水怒り而して榛莽遮蔽し其委流を窮むる能はず、(中略)四邊に楓樹多し、葉皆七出霜紅想ふべし、山端に隨うて而して行くに雜樹交蔭水其下を行き緩流清淺極めて幽致あり、是れ華嚴の源にして面して補陀洛湖之尾なり、水に沿うて中禪寺に抵る。

中禪寺。 中禪の寺たるや男體山を負ひて

補陀洛湖に面す、其の山たる極めて高し、蓋し宇都宮より日光山麓に到る迄足指皆仰ぐ中禪又山麓より高きこと幾百尺、而して男體更に特立して天を摩す、山頂に祠を置く是れ日光の奥の院となす。(中略)

湯本 日光に躋りて而して湯本に抵らざれば未だ其の勝を盡さず、中禪山麓を距る既に三里、湯本は更に中禪の西三里に在り十五日補陀洛湖に沿うて行くこと里許り溪を渡るもの二漸く湖と別る、又行くこと一里夷曠潤闊是れを赤沼原となす、藥草雜花彌望繡錯細徑縷の如く鳴虫人に近きて蜚音を畏れず、原を過ぎて左折し山林中に入る

忽湖を獲たり、大さ補陀洛湖に半し、而して硫黄の氣蒸す如し、(中略)湖首は別ち湯本温泉頗ぶる治験あり、湯槽凡そ十二板を以て之れを造り每槽方九尺屋して而して之れを庇ふ腥臭鼻を衝き亭を構ひて客を留むる者九月なり。(中略)

龍頭瀑 龍頭瀑は湯本と中禪との間に在り、(中略)即ち瀑上に至る、巨巖溪を専らにし頂潤くして脚長く上流清淺なり、是に至て輒ち陷る、巖に坎谷多し水躍つて而して入り激して而して出づ、轉々突怒す、亦一の勝觀也、然れども是れ特に湓流の奇なるものにして其の實瀑と名づくべからず、

但し其の奇狀異態諸勝中指を屈するに堪えたるものなり。(中略)

荒澤瀑 既に奥僻之秘を究め遂に荒澤瀑を探らんと欲す、(中略)前んで瀑の右に出づ、此の瀑背を觀るを以て顯はる、故に又裏見瀑と云ふ、巨巖高聳瀑其頂きより落つ巖腹空虚にして洞を爲す余降りて觀んと欲す泉滴清冽足指墜んと欲す、石を踏みて蛇行す遂に巖腹瀑背に至る、玉簾中に坐する如く偉觀頓に倍す、下は不測に臨み危甚ふして而して奇亦極まれり。(中略)

霧降瀑 霧降の瀑を探らんと欲す、(中略)遂に瀑底に至る、仰いで之れを視れば

頂甚しくは廣からず、巖凡そ五層、每層の幅員倍蓰し趾殆んど十四五丈高さ又三十丈許り、水巖に貼して而して下る、綱目を張る如く滿巖皆水迸散激射し飛沫霧の如し、其名誣ひざるなり、余思へらく華巖は正にして而して壯なるものなり、荒澤は變にして奇なるものなり、奇にして壯なるものは霧降也、而して壯と奇と亦各異狀殊態故に日光の諸瀑愈着て而して愈顯かざるなり、是に於て日光山の勝既に盡く昏黑逆旅に歸る。

関宮 十七日晨起鹽嗽関宮を拜せんと欲し出でて大谷川に臨む、橋其の上に架す、

朱髹金鉸支ふるに石柱を以てす堅好比無し欄を縁らして往來を禁ず、更に其傍に橋し人馬皆焉れに因る、磴道老杉の間に通じ右は即ち法王の宮殿左は即ち幕府の館址中央に石華表あり高さ二丈七尺六寸五分徑三尺五寸筑前侯長政の獻創なり、扁して東照大権現と曰ふ、後水尾帝の宸翰なり、入て而して左す五層の浮圖あり高さ十七間二尺金碧を鏤刻し其の精を極めたり、酒井侯忠勝の獻創なり、是に於て麻衣裳を着け跣して而して石階を攀づ、仁王門あり左右の外面に巨丈夫對立し内面には二犬蹲踞す、椽桶は龍虎竹菊を刻す、門の東西外扉各三十間

此れより以内領盤にて道を爲る、神庫三棟分ちて上中下となす曲折相接す方木を積みて之れを爲る甚だ偉麗なり、花木鳥獸を刻す、就中上庫の梁間なる牝牡黑白の二象凍々として生きたる如し、神廐馬常には居らず、廐の西に額盤凹みたる全石にて之れを爲り水石底より湧く銅屋石柱製頗る奇肥前侯勝成の獻置なり、額盤の前に銅華表高さ二丈葵章五を鏤す、又石級を攀づれば右に朝鮮貢ずる處の洪鐘を置き、左に和蘭貢ずる所の燈臺を置く、井に奇石皆な屋して而して之を庇ふ、又更に左右鐘鼓の二樓あり頂狹く趾豐か壯麗極せり、又石階を攀づ

るに樓門を得たり扁して陽明門と曰ふ、亦後水尾帝の御書なり杖欄の間人物禽獸草木花卉を刻せり悉く具はらざる莫し、左右に衣冠を着け弓矢を挾む者あり之れを隨身と謂ふ、而して内面又青赤の風雷二神の像を置き橋角の四隅に金鈴を掛く口徑盈咫其精巧なる蓋し日力を極むるに非ざれば細視すべからずと、故に日暮門と曰ふ、遂に前んで唐門に至る、兩楹には升降の二龍及梅竹を鐫り填むるに他木を以てす、楹上は横さまに十哲七賢及鳳凰狻猊を列刻す、凡そ門扉は皆全板にして之れを爲る、而して之れは特に梅竹牡丹を刻し頂格は金質二龍を墨

描す狩野探幽が畫く處なり、筆蹟超妙にして生色あり、門の東西内扉にて闕宮を圍む扉上には花木禽鳥を刻し下には波浪鱗魚を刻し、中間は即ち菱孔空櫃屏外は廊廡環繞す、乃ち門に入りて肅拜す、蓋し聞く唐門の内は貴顯と雖も法常入するを許さず、而して吾儕陪臺私に入て拜するを得、其の賜たる大なり矣、而して神威咫尺金碧煌燿瞻儀目眩仰視する事能はず、是を以て其の殿傑華麗得て記すべからず、其の他護摩神樂の二堂及典庫輪藏皆な鉅麗一々に詳記すべからず。(中略)

凡そ闕宮所有の異材珍木多くは蕃船の齎ら

す所而して天下の巧匠良工を鳩め以て造營
彫鏤之精を極む、悉く神に入らざるなし、
殿廡門扉屋皆な銅瓦陸欄柱楹朱髹に非され
ば即ち烏漆澤々として鑑す可く、釘鉸皆な
鑿するに金銀を以てし、五彩奇靡堅緻精巧
誰も模する能はず口も言ふ能はず、嗟呼列
祖奕世紹述治化實に豐し我儕吟咏放浪以て
歲月を卒ふる者果して誰の恩ならん哉、今
一度其の廟門に入るを得たり其れ隻辭の以
て贊述する無くして可ならん哉、是を以て
敢て自ら僭逾を忘れ僅かに其概略を記する
こと如此。

鹽原温泉

山水の美なると温泉の效あるとを以て俄かに
名聲を高めたる鹽原温泉は鹽谷郡鹽原山麓に
在り。

鹽原は上野より乗車して野州西那須野驛に
下車し西北約六里、馬車人力車の便あり。

西那須野驛より行くこと十餘町、三島村あ
り、此の村より關谷村までは茫々たる原野に
して關谷より箒川の岸に沿ひて山坂に入る、
尾崎紅葉氏の鹽原遊記に「車を驅りて白羽坂
を踰へてより回願橋には三十尺の飛瀑をふみ
て山中の景初めて奇なり、之れより行きて道

あれば水あり水あれば必ず橋あり全徑にして
三十橋、山あれば巖あり巖あれば必ず瀑あり
全嶺にして七十瀑、地あれば泉あり泉あれば
必ず熱あり全村にして四十五湯、尙ほ數ふれ
ば十二勝、十六名所、七不思議、一々探り得
べくもあらず」とあり。

鹽原温泉は上、中、下、鹽原、及湯本鹽原
の四ヶ所に散在し、就中中鹽原、下鹽原最も
多し、其地の小名を大綱、福渡戸、鹽釜、鹽
之湯、畑下戸、門前、及古町と稱し、之れを
鹽原七湯と呼ぶ。

大綱温泉 關谷より一里半の道程たり、一茶
店と二温泉宿在るのみ、温泉の湧出する所は

箒川の溪上に在りて石間の湯、河原の湯と名
づく。

福渡戸温泉 大綱より行くこと數町、深潭在
り之れを見ヶ淵と稱す、箒川の水此處に澱み
て其深さ測るべからず、水色深藍を流したる
が如し、更に前めば寒冷橋あり、渡りて白雲
洞あり、隧道數十歩此れ三島通庸の穿造にか
かる、進むこと十町許りにて福渡戸に達す
福渡戸は山中の小繁華にして旅館山に傍ひ溪
を枕にす、極めて風致なり、温泉の湧出口は
箒川の巨巖の間にして各温泉宿は篋を以て之
れを浴槽に導く。
鹽釜温泉及畑下戸温泉 福渡戸より歩を移す

こと四五町、峭巖壁外に登ゆること數百仞、其巖きに青松を載生す、是れ有名なる天狗岩なり、天狗岩の左側に野立岩と稱する巨巖あり、巖の高さは二丈許りなるも其面は平夷にして百人の人を容易に立たしむ、曾て蒲生氏郷會津に歸る途次此の岩上に露泊せり故に野立岩の名あり、其他奇岩怪石縱横に散在起伏し、激流之れを衝き飛沫は恰も白雪の如く其絶景言はんかたなし、此所を経て官道を右折すれば鹽釜温泉に到り、又道を眞直に行けば畑下戸温泉に到る。
門前温泉及古町温泉 畑下戸より四町にして門前温泉あり、蓬萊橋を渡りて古町温泉あり

鹽原温泉の中心にして最も繁榮を極め恰も箱根温泉に於ける宮の下の如し、門前の原泉を自藥坊湯、三島の湯、寺の湯、河原湯と云ひ、古町の源泉を不動の湯、瀧の湯、中の湯、角の湯、御所の湯、中山の湯と稱す。
鹽之湯温泉 鹽釜より鹽瀧橋を渡りて行くこと二十町にして鹽の湯温泉あり。
之れを要するに鹽原温泉は山深く水清く奇岩到る處に散在し、山容水色、雲形樹影皆な奇妙ならざるはなく、實に東北第一の温泉場たり温泉の效能は痲痺質斯、子宮病、痔疾、病病胃弱、貧血性に宜しと云ふ。
(附記) 毎年十月下旬より十一月中旬迄の

間は楓樹紅葉し一層美觀を加ふ。

「寒風にもろくも落つる紅葉かな」の一句を遺して世を辭したる彼の萬治高雄の墳墓は箒川の絶景の間にあり絶世の佳人が土中に永く眠りし姿は箒川の幽趣を更に深からしむ。

那須温泉

西那須野驛より東那須野を経て黒磯驛に着す此驛より四里餘の間人力車の便を借れば那須七湯第一の湯本温泉に達す、那須七湯とは湯本、高雄股、辨天、北温泉、大丸、三斗小屋板室の七温泉を云ふ。

湯本は東北に那須ヶ嶽を負ひ、西南は平夷にして眺望稍々快裕なり、温泉は那須ヶ嶽の麓より湧出するものにして泉質は酸性泉なり無色透明なれ共硫黄の臭氣を帯び且強酸性味を有す、胎毒、痲病、皮膚病、痲痺質斯に效驗あり、温泉は酸性強きを以て屢々入浴する時は頭痛、眩暈を起し、又温泉に浸したる手拭などを日光に晒すべからず、猶婦人は化粧の儘にて入浴すべからず、若し之れに反する時は白粉は鉛類にて製したるものなれば忽ち其顔面黒色に變ずることあり、其他金屬製の品物は酸化し易きを以て指環などを飲めたる儘にて入浴すべからず。

當温泉は其風景鹽原に及ばず、然れども病に特效あると費用の低廉なるとの長所あるを以て浴客常に充つ。

湯本より登ること十餘丁にして高雄股温泉あり、附近に有名なる殺生石あり、湯本より途を北すれば約一里にして辨天温泉在り、辨財天を祀れる岩窟在るを以て其名あり、辨天より東方十八町にして北温泉あり、此の邊老杉古檜鬱々として晝尙暗し、更に前むこと十五町、大丸温泉に達す、此所より二里にして三斗小屋に達し、三斗小屋より茶白山の西南を廻ること四里にして板室温泉に着す、以上を那須野の七湯廻りと云ふ。

那須温泉附近より磐城國境に至るまでを那須野と云ふ、古今の吟詠多し。

鎌倉右大臣

「武夫の矢なみつくらふことのうへに霞たばしる那須のしのはら」

蒲生氏郷

「世のなかに我れは何をか那須の原なすわざもなく年や經ぬべき」

東北地方

磐城國

甲子温泉

汽車は西那須野驛を経て白河驛に着す、白河町は阿部氏の舊城邑にして阿武隈川其街北を流る、甲子温泉は白河町を距る西方五里餘、甲子山中に在り。

當温泉は海面を抜くこと二千三百尺、四面は連峰を以て包圍せられ、中に阿武隈川の源流ありて至極幽寂の地なり、泉質は鹽類泉に

東北地方

屬し胃病、痲痛、痲瘋質斯に特效あり。

甲子山中には所謂八十八瀑と稱して多くの瀑布懸れり、有名なるを大熊雄瀑、衣紋瀑、白瀑となす、就中白瀑は壯觀第一と稱せらる。彼の能因法師が「都をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河の關」と詠める和歌にて人も知る白河の關址は白河驛の東南約三里にして達す。

鎌先温泉

鎌先温泉は白石驛を距る二里、刈田郡福岡村に屬す、温泉は鎌先山中より湧出し、泉質は芒硝泉に屬して多量の硫酸カリウム硫酸ナト

東北地方

リウムを包含す、效能は慢性便秘、逆上症、脚氣に宜し。

白石驛の西南二里にして小原温泉在り、小原村桂澤山の麓に位し、泉質は鹽類泉なり。

磐城國の諸名所

松川浦十二景 國中第一の勝景なり。

國從一位

「春やなほたくひもなみのあけぼのにかすむ緑の松川の浦」

遠刈田温泉 地勢は四面青巒を以て圍まれ松川の溪流を擁して頗る閑靜の地なり。

關の湖 俗に大沼と稱し其周囲僅々二十餘町

なれども沿岸の風景頗る佳なり。

木奴美ヶ浦 大小の奇岩波間に起伏し奇景いはんかたなし。

西行法師

「東路のこねみか浦にひとよ寝てあすや拜まん波立の寺」

岩代國

飯坂温泉

長岡驛より西方三十町許り其間は輕便鐵道の便ありて飯坂温泉に達す、當温泉の北は摺上川の急湍にして、東北には愛宕山を望み、西

北に大作山を仰ぎ、其山水の風致閑雅を極む、泉質は鹽類泉にして脚氣、腺病、痲痺質斯に效あり。

飯坂温泉は諸設備整頓しあれば浴客は不便を感ずることなく、且此地は四時の氣候比較的平穩にして夏季も酷熱なく冬季も嚴寒を知らず。

東山温泉

上野驛より乗車し郡山驛にて乗換へ舊松平氏の城下なる若松市の停車場にて下車して僅々二十餘町にして東山温泉に達す。

東山は會津地方に於ける有名なる温泉な

東北地方

り、東南北の三面は峰巒屹立し、西方の一面開く、泉質は鹽類泉に屬して梅毒、眼病、脚氣に效驗あり。

若松市の東方二十町にして飯盛山あり、山中には美名を世に残したる彼の戊辰の役に於ける白虎隊の健兒十有九名の墓あり。

岩代國の諸名所

安達ヶ原舊址 世に所謂安達ヶ原黒塚の舊址にして二本松の東方大平村にあり

兼盛

「みちのくの安達ヶ原の黒塚におにこもれりとときくは誠か」

猪苗代湖 周回十三里二十町、湖中に一島あり翁島と稱す、沿岸の風景絶佳にして國內第一の勝區なり。

盤梯山 明治廿一年七月に轟然破裂せしは人も知る所にして北部の山中に盤梯温泉あり。信夫山公園 古來より名高き勝地にして今は公園に編せらる、四時共に風光明媚なり。

業平朝臣

「信夫山忍ひてかよふ道もかな人の心のおくも知るへく」

陸前國

松島及鹽竈の浦

遊覽者は鹽竈驛にて下車し海上の奇景を探りそれより松島驛に出づるか、又は松島驛に下車して鹽竈驛に出づるか二者一途旅客の便宜を探るべし、而して旅館主に小舟の雇入方を依頼するを便とす。

鹽竈には所謂奥州一の宮なる鹽竈神社あり廟宇華麗にして境内には老樹繁茂し甚だ深幽なり。社後の小丘より鹽竈灣内を望む風致は又別段なり。

鹽竈より松島に至る海濱を稱して千賀の浦又は鹽竈の浦と謂ふ、此浦を詠める國風多し。

家隆

「見渡せば霞のうちもかすみけり煙たなび

鹽竈の浦

大納言經信

「煙たつあまのとまやも見えぬまで霞にけりな鹽がまの浦」

道信朝臣

「千賀の浦浪寄せかへる心地してひるまなくても暮しつるかな」

日本三景の隨一なる松島は鹽竈港頭より松島村に至る海上三里の絶景を云ふ、大小の島嶼を數ふれば三百有三十、大なるもあれば小なるもあり、遠きもあれば近きもあり、躍るが如きあり、舞ふが如きあり、端座するもの匍匐するものありて、皆其趣を異にし、殆ど

東北地方

應接に違あらず、島上には翠松を載きて千古の色を水に浸し、白帆點々として島より島に隠顯す、其風景の絶佳なる状實に造化の技を盡し、自然の美を極め、觀る者をして羽化登仙の感を催さしめ、唯だ松島や——松島やと賞揚するより他に形容の辞なし。

釋南山

「天下有山水。各擅一方美。」

衆美歸松島。天下無山水。」

大槻盤溪

「風帆近掠岸邊松。遙見群巒走若龍。」

幾處灣峙巧交代。前洲纒綻後洲縫」

土御門内大臣

「浦風や夜寒なるらん松島の海士の管やに衣打つなり」

人 丸

「あふことはいつしかとのみ松島のかはらず人を戀わたるかな」

管 良

「松島や鶴に身をかれ時鳥」

松島沿岸の五大堂、觀瀾亭、大觀山等何れも眺望人を醉はしむ、又瑞慶寺は松島村にあり青龍山圓福寺と號して臨濟宗に屬す、古は松島寺と稱したりしが伊達政宗の時改めて瑞慶圓福寺と云ひ伊達家の廟所とせらる、堂宇結構にして胡銅の聖觀音を以て本尊となす。

陸前國の諸名所

宮城野 著名なる原野なり古歌多し。

西行法師

「哀いかに草葉の露のこぼるらん秋風たちぬ宮城野の原」

源俊賴朝臣

「さまざまに心ぞ留る宮城野の花のいろい
る蟲のこえく」

多賀城址 多賀城村宇市川に在り。

菖蒲田海水浴 渺茫限りなき太平洋に面し、海岸一帯は白沙青松と相映じて眺望甚だ佳なり、四季共に靜養地として良し。

作並溫泉 泉質は鹽類泉にして脚氣、僂麻質斯、火傷、子宮病等に效あり

金華山 牡鹿半島の極端に在る一島嶼にして鮎川村に屬す、山腹に金華山大金寺あり、里人之れを辨才天堂と云ふ。

陸 中 國

陸中國の諸名所

五串の瀑 瀑布は二段となりて落下し上段を雄瀑、下段を雌瀑と云ふ、瀑布の近傍には奇岩怪石起伏して奇觀なり。

中尊寺 當寺は奥羽第一の古刹にして仁明天

東北地方

皇の御宇嘉祥三年慈覺大師の開基にかゝる。衣川 歴史上名高き古蹟なり。
「たが袖につゝむ螢の衣川思ひあまりて玉ともゆらん」
水澤公園 園内に駒形神社あり、四望宏闊なる遊園とす、園の西數町にして世界三觀測所の一なる緯度觀測所在り。
岩手山 一名を岩手富士と稱す、山頂に岩手山神社あり稻倉魂命、大己貴命、日本武尊を祀る。

家 隆

陸 奥 國

陸奥國の諸名所

十和田湖 十和田山中に在り、周回十五里餘、四面高山を以て環擁せられ、沿岸の風景頗る妙なり。

淺蟲温泉 當温泉は鹽類泉に屬し、地は海濱に接して眺望に富む。

外ヶ濱 青森灣海濱の總稱にして沿岸到る所眺望に富み勝地擧げて數へ難し。

西行法師

「みちのくのおくゆがしくも思ほゆる壺のいしぶみそとの濱風」

岩木山 別名を津輕富士と云ふ、山麓に二三

羽後國

羽後國の諸名所

男鹿半島 上野より乗車して追分驛又は大久保驛に下車し、それより何れも西方五里にして船川港、土崎港に至る、此の處より戸賀に至る三里餘の間の風景は實に壯大にして心氣自ら濶大なるを覺ゆ。

羽前國

羽前國の諸名所

「鳴村々下借ニ仙橋。峭碧奇青出ニ海朝。崖樹陰冥考藥睡。洋風空濶大濤駭。」
窟開ニ殿ニ黒無底。石卷ニ龍身ニ天有橋。
男子一搜ニ雄鹿島。松洲始覺屬ニ妖燒。」
小野小町舊址 小野村大字小野に在り、小町此の地に生れ其長ずるに及んで才色絶倫なりしを以て普く人に知らる。
烏海山 東北より之れを望めば其山谷富士に似たり、山頂に大物忘神社あり、國內屈指の舊社にして豐字氣毘賣神、若字賀賣神、保喰神を祀る。

最上川 遠く源を南置賜郡吾妻嶽に發し、諸川を合せて酒田港に注ぐもの、之れを最上川となす、大石田より川舟に乗りて下れば兩岸の風景絶佳にして古口村の沿岸には所謂四十八瀧と稱して多數の瀑布を見る、源重之の歌に「最上川たきの白絲くる人のこゝによらぬはあらしとぞ思ふ」とあり。
山寺 寶珠山立石寺と號す國內屈指の靈場なり、貞觀二年慈覺大師の草創にかゝる。

千歳公園 園内には老杉古檜鬱々として繁茂し翠色揃すべきものあり、又國事の爲めに曉れたる志士を祀れる招魂社在りて毎年五月六日を以て祭事を行ふ。

羽黒山神社 羽黒山上に在り、稻倉魂命と

玉依姫命とを合祀し出羽神社と號す。

月山神社 月夜見命を祀り月山山頂に鎮座せ

り。

湯殿山神社 湯殿山上に在り大己貴命、少彦

名命、大山祇命を合祀す、月山、羽黒、湯殿

の三山に登拜する者多くは羽黒を第一とし月

山を第二にし湯殿を最後にす。

袖ヶ浦 袖浦村大字宮の濱海濱の名なり、白

沙青松と相映じ風光絶佳の地なり、

「白妙の袖の浦浪よるくにもろこし舟や

漕ぎ渡るらん」

赤湯温泉 當温泉の由來は遠く正和の昔にあ

り、泉質は鹽類泉にして脚氣、胃腸病、瘰癧

質斯等に效ありと云ふ。

中央部

伊豆國

熱海温泉

元來伊豆半島は至る處に温泉湧出して其數を知らず、一々枚擧するに遑あらざるが故に唯だ有名なる四五の温泉を紹介するに止めん。

東京より熱海に行くには新橋より乗車し國府津驛にて下車し、國府津にて電車の便を借りて小田原に至り、小田原よりは輕便鐵道にて熱海に着す、又海上には國府津より東京灣

汽船の往復するあり。

熱海温泉の舊記を案ずるに、仁賢天皇の四年、蚊島某罪ありて獄中に死す、天皇其屍を熱海の海に投せしめ給ひしに忽ち温泉湧出し魚介盡く死すと、此れ等の説の信偽は別として兎も角熱海温泉の由來頗る古きものたるを知るに難からず。

昔は熱海七湯と稱して大湯、清左衛門湯、小澤湯、風呂湯、河原湯、太郎湯、野中湯のみなりしが、現今は其數を増加し古屋の湯、隣湯、水の湯、伊勢屋湯等を始めとして二十有餘湯となれり。泉質は食鹽泉にして脚氣、水腫、子宮病、氣

管支加答兒、腺病等に特效あり、而して大湯を除く他は其性質は略同一にして、或は岩石より或は砂層より湧き出づ、中に尤も奇観なるは大湯にして晝夜三次時を違へず噴出す之れ間歇泉の稱ある所以なり、其將に湧噴せんとするや石罅に細泡を吐き暫時にして滴々珠をなし白氣を生じて落つ、落つること漸く多量となり遂に熱泉噴出し、響は宛然雷の如く白氣は天に漲る、之れを久しくして止む、又時々長噴することあり、長噴の際は概れ十二時間にして、長噴すれば必ず長休あり、此の大湯の湧出する所には柵を設けて衆人の入ることを禁じたり、蓋し湧噴の時は危険なるを以てなり。

熱海は風色佳絶の位置に在り、即ち地は三面山を以て圍繞せられ、一方は相模灘に面し、夏は涼風來りて心神を爽快ならしめ、冬は温暖にして避寒の地に適す、成島柳北曾て熱海八景を選ぶ、曰く、梅園の春曉、米宮の杜鵑、温泉寺の古松、横磯の晚涼、初島の漁火、錦浦の秋月、魚見崎の歸帆、和田山の暮雪、是れなり。

伊豆山温泉

熱海の東方十七八丁、名高き伊豆神社の在る處なり、伊豆神社は元と走湯山東明寺と稱し、

上下二宮三千の支坊を領せし關東の總鎮守なりしが、中頃より衰へて僅かに上の宮のみを存す、巨樹森然として甚だ幽靜の境たり、海濱の方に至れば即ち伊豆山温泉場にして、前面は相模灘、後面は伊豆山を負ひ、其景敢て熱海に譲らず、温泉は明礬硫黄を含み婦人生殖器諸病、胃、腸、肺の諸症、脚氣、皮膚病に效あり。

伊東温泉

伊東は伊豆國田方郡の東極に位す、單に伊東と總稱すれども、松原、湯川、岡、鎌田、新井、久須美の六區よりなる、温泉は數箇所

り湧出し、猪戸湯、出來湯、和田の湯なども著はる。

伊東は交通不便にして熱海へ五里、網代へ三里、修善寺、大仁、及菰山へ各五里、下田へ十三里にして、何れも人力車を通ぜず、故に東京灣汽船に依るか或は豆相鐵道大仁驛より行くを便なりとす、斯くの如く伊東温泉は交通不便にして足を向くるに困難なれども、熱海、伊豆山温泉の如く雜沓せず、至極閑靜にして物價低廉、氣候亦溫和なるを以て、避暑、避寒に適し或は靜養地として頗る佳良なりとす。

此地西南北の三面は山を以て圍繞せられ、

東方は伊東灣に瀕し、其四顧の風致に於ても又熱海に劣ることなく、彼の熱海の雜沓に比すれば優ること數等なり。

泉質は鹽類泉にして、無色無臭、慢性癩麻質斯、子宮症、胃弱、脚氣等に特效ありと云へり。

伊東は曾て伊東祐親の邑たりし所にして祐親の墓は地藏ヶ原の丘頭に在り、東林寺は祐親の創基にかゝり、河津三郎祐安の冥福を祈りしものなりと云ふ、東林寺より十町を距て音無の森あり此の森は頼朝と祐親の娘八重姫と戀歎を語りし處なりと言ひ傳ふ。

伊東海水浴場は湯川、松原、の海濱にして

伊東の中央に位し、遠淺にして浪靜穰なり、遠く相模灘を望みて浴する時は自ら浩氣の氣宇を養ふに足る、其他伊東附近の名勝舊跡には、伊東十二景の撰、噴潮岩、日蓮上人の開基に係る佛現寺等名高し。

修善寺温泉井其附近の温泉

豆相鐵道大仁驛にて下車し、狩野川を渡りて瓜生野を過ぎ、右折して桂川の流域に沿ひて廻れば即ち修善寺に達す。

修善寺温泉の由來は頗る古き事に屬し、此温泉を發見せしものは弘法大師なりとの説あり、鎌倉時代に源頼朝の弟範頼建久三年此地

に於て自殺し、頼朝の子頼家も此所に幽閉せられ、後浴室にて殺されしことなど史上著明の事蹟たり。

此地上古は桂谷又は桂郷と稱せしが大同年間、弘法大師が此地に一寺を創建し、修禪寺と名けしより遂に修善寺と稱するに至れり、寺を修禪寺と稱し村を修善寺と謂ふ。

伊豆には温泉數あれ共、第一に指を屈するは熱海、第二には修善寺を推さざるべからず然れ共土地の閑靜幽趣なるに至りては修善寺温泉數等を抜く。

修善寺を貫通する桂川は源を達磨山に發し沿岸には奇岩妙石起伏して雅趣深く、川に三

橋を架す一を虎溪橋と云ひ、一を渡月橋と云ひ、他の一を柳橋と云ふ。

温泉の湧口は鍋鉢湯、河原湯、筥の湯、石湯、杉の湯、瀧の湯、葛蒲湯、保生湯等あり就中鍋鉢湯は有名にして其湧口は桂川の中流にあり、岩を穿ちて湯槽となし板を以て其中を劃して冷、温の二湯に分つ、岩上に鍋鉢形の石標を立つ、是れ天明中修禪寺の僧大鼎和尚の建つるところなり。

泉質は鹽類泉にして梅癩、疥癬、子宮諸病、痔疾、痛風、疝氣、胃加答兒、肺炎、癩麻質斯、皮膚病等に特效あり。

修善寺附近の名勝舊蹟には修禪寺あり、

修禪寺は平城天皇の御宇空海上人(弘法大師)の開山に係り、古へは眞言宗なりしが後臨濟派禪宗と改宗す、建久三年梶原景時のために毀はれて範頼此の寺境に自殺せり、其後北條時政も亦頼家を此寺に幽閉し終に浴場にて暗殺せり、三洲園は桂川の南面にあり、此地古來より指月ヶ岡の稱あり、傳ふるところによれば尼將軍政子屢々此所に来遊し、月に對して源將軍を追憶したりしと、後荒廢に歸したりしが村民の力により今は一の遊園となれり、遊園の傍らに頼家の墓あり、尙ほ桂川の沿岸には諸所に舊蹟あれども煩に互るを以て茲に記さず。

修善寺より縣道に出でて大平に至り旭瀑布の壯大なる景を看、松ヶ瀬、青羽根の二村を過ぐれば船原温泉に至る、更に南方狩野川に沿ひて歩を進むれば嵯峨澤温泉あり、尙行くこと二十丁にして、湯ヶ島温泉に達す。

何れの温泉場、海水浴場にても交通機關の完備したる地は雜沓し、風俗亂れ、經費も嵩み、閑靜を好む者及學生、小官吏の靜養に適せざるや必せり、交通不便の點に於て湯ヶ島は此缺點を有す、然れども湯ヶ島は熱海の如く混雜せず四顧閑靜にして、物價低廉、風俗亦質朴なれば眞の靜養者の歡迎する地なる可し、湯ヶ島を貫流する川は狩野川にして南面

好む者には適す。

駿河國

富士山

石川丈山

「仙客來遊雲外嶺。神龍栖老洞中淵。

雲如紈素烟如柄。白扇倒懸東海天。」

松尾芭蕉

「雲霧のしばし百景をつくしけり。」

富士山に關する古今の吟詠其數をしらす常に詩人歌人の話頭に上る。

遠くより之れを見るに威風凜々として侵す

は天城の靈山峙ち、四面綠翠の樹木繁茂して盛夏の候も八十度を昇らず、泉質は鹽類泉にして湧口は西半、世古、木立の三ヶ所に分る、温泉は僕麻實斯、腹胃加答兒、脚氣に效ありと云ふ。

戸田海水浴

戸田海水浴は田方郡戸田村に在り、沼津より汽船の便あり。

北方は富士の秀峯を雲外に眺め、三保の松原、田子の浦は目睫の間に望む、且潮水清く灣内の波浪靜穩なれば危險の虞少く、海水浴には好恰の地なり、交通不便なれども閑雅を

べからず、近くよりして人皆な胸襟を正して敬慕の念を生ぜしむ、未だ此の靈山に接せざる者をして神往せしめ、既に往き看し者をして心酔せしむ、誠に詩人歌人が之れを親愛するも宜なりと云ふべし、蓋し富士山は我帝國を代表する名山にして海面を抜くこと一萬二千四百尺、其高度に於ては臺灣の新高山に劣ると雖も其正容に於て彼れは此れに比すべくもあらず。

富士山は駿河、甲斐の兩國に跨りて附近十三ヶ國より之れを望むことを得。毎年六月一日に山開を行ひ以降五六十日間を以て登山期となす、登山口は數ヶ所あり、即ち大宮口、

須走口、吉田口、人穴口、御殿場口之れなり。關西地方より此山に登るには、東海道鈴川驛に下車して大宮口より登るを便とすれども東京地方よりは御殿場口を擇ぶを便なりとす而して旅館にて登山の仕度及剛力を雇入れて登山の道に就くべし。

御殿場より頂上迄は約七里の道程たり、而して一合目迄は三里餘、其間坂路急ならず自由車馬を通ずることを得、御殿場より行く事一里、瀧川原に着す、此所には旅館、休憩所の設けあり、瀧川原より一里にして馬返しに到る、更に雜木生茂りたる間を前むこと一里許りにて太郎坊の前に出づ、太郎坊にて

金剛杖、草鞋等を商ふ家あれば之れを購ひて更に行くこと十八九町許り即ち本山一合目に達すべし、一合目以上は一面の焼原にして歩行稍々困難を感ず、而して三合目迄はさして坂路峻しからず、三合目より始めて歩行の苦しきを覺ゆ、四合五合六合七合目と漸次登るに従ひ險阻漸々に加はり、空氣は稀薄となりて息切を感ず、七合目邊より山麓を眺れば最早や豆相の諸峯は脚下に在り、廣茫たる裾野は宛然毛氈を敷き詰めたる如く、海面一體は鏡の如し、其景恰も一幅の大なる繪畫を擴げたるが如し、日没の奇景を見て七合目の石室に一泊し翌日頂上に登るを普通とす。

石室に入りて四顧すれば、廣き僅かに五六坪、三方は石を積み上げ、室内濛暗く、且決して清潔なりとは云ひ難し、四合目以上の休息所の皆石にて造りしは、暴風雪崩にも堪ゆる故なるべし、七合目にて日の出の壯快なる光景を看、其れより八合目の石室を過ぎ頂上に向つて進むこと數町、凹形をなしたる谷合に出づ、此の地を大ダルミと稱し四時共に雪の消ゆることなき處とす、此谷を越ゆれば胸突八町と稱する登山中第一の難嶮所に達す、胸突を過ぎて歩行敏丁にして左に駒ヶ嶽峙ち、右に賽の河原横はり、其間に窪き道を開きたる場所に達す、是れ頂上表道の入口なり、傍

らに銀明水あり、傳へ言ふ此の水を飲めば諸病に罹ることなしと、故に登山者は必ず一掬するを常とす、是れより南に進めば銅馬堂あり、此の堂の由来を聞くに、昔聖徳太子黒馬に乗りて登山し暫時此所に休息せられし跡なりと、堂の側より富士の山頂たる駒ヶ嶽に達し、平地の盡くる所に國幣中社淺間神社の奥の院あり、傍に三四の石室を設く、講中信徒の通夜する所なり、奥の宮も外部は石を以て築かれ極めて粗造の建物なり、本社の方なる戸を開きて遣入れば、良香朝臣の富士山記の碑あり、山頂の中央に舊噴火口在り、噴火口は圓形にして上部は廣く、下方に至るに

從ひて漸次に狭く、土中に大なる楕圓を埋めたるが如し、底には萬古の雪を充たす、信徒は此の噴火口を以て内院と稱し淺間神靈の在す所として遙拜敬禮す、噴火口の周圍外輪一周は大約五十町、内輪は大約三十町を有し俗に之れを八千れう廻りと稱す、外輪には三島嶽、劍ヶ峯、白山嶽、久須志嶽、豆山、成就嶽、淺間嶽等の連山あり、之れに駒ヶ嶽を加へて富士八峯と云ふ、就中劍ヶ峯は山頂第一の高山にして頂上の平地より百尺許り突出す其岩質の堅剛なるを以て劍ヶ峯と名づけしなり、白山嶽の麓には金明水あり、銀明水と共に名高し。

頂上より四面を眺むれば近くは互相の連山を始め甲斐の駒ヶ嶽、信濃の御嶽、淺間山、遙かに秀拔したる加賀の白山等の高低起伏の状は宛然螺の如く、萬重の波濤に似たり、其奇景絶景は到底筆紙の及ぶところに非ず、蓋し宮嶽登山は夏期の旅行中最も壯絶なるものにして身を天界に置き自然の秘密を探究するものなれば、快事中の快事ならむ。

歸途に就くには銀明水の側より、胸突、大タルミを経て七合目に至り、南に折れて走り道に就くべし、足に二重三重の草鞋を穿ち杖を以て身を支へつゝ、小砂利上を迂り下る、一步進めば四五尺下り、二歩進めば二三間を迂

り、恰も風船に乗りしが如き心地す、七合目より三合目迄は僅かに一時間位にして樂々と下降することを得、其爽快なること上り道の比に非ず、三合目よりは上り道と同じく太郎坊馬返しを経て御殿場に着す。

牛臥海水浴

牛臥は沼津驛の南方約一里、牛臥山麓にあり、牛臥は伊豆の大瀬崎と駿河の三保ヶ崎と左右より突出して内海を形成し、浪靜かにして水清ければ海水浴場として良所なり、牛臥山は遠くより之れを望めば宛然型牛の臥したるに似たり、故に牛臥と名づけしものなり。

牛臥の海濱には奇巖怪岩起伏し、東方の松林は綠滴るばかり、殊に富士を始め箱根の諸山を雙眸の中に收め、又大瀬崎、三保ヶ崎を望む、其風光の佳なる儘かに一遊の値あり、夏期は四方の浴客來集して混雜す、又近時此の地に貴紳士の別荘多く設けらる。

沼津附近の海水浴場には牛臥の他に靜浦海水浴、我入道海水浴場あり、前者は牛臥の南方に、後者は牛臥の北方に位して、何れも牛臥に譲らぬ風景を有す。

沼津驛と原驛との間に千本松原あり、沼津を距る十八町にして其名稱に背かず青松幾千となく相連なり、遙かに三保の松原と相對峙す。

す。

俗語に

「坊や、よい子じゃれんれしな、此の兒の可愛き限りない、山には木の數草の數、沼津に居れば千本松、千本松原小松原、松の葉よりも尙ほ可愛い」

東關紀行

「見渡せばちも、の松の末縁につゝくなみのうへかな」

田子の浦に打ち出で、見れば白妙の富士の高根に雪は降りつゝとの歌にて勝景天下に隠れなき田子の浦は、東海道鈴川驛より至る、前面に三保あり、後に富士欽然として坐す、

山光水色相俟つて人の心を醉はしむ。

清見潟海水浴

東海道興津驛に下車し、西南に向ひ行くこと六町にして海岸に至る。

海濱には岩石無數に横はり中には徳川家康の御坐石などと傳ふる岩あり、海を隔て、伊豆の諸山を望み、南方は所謂三保の松原を眺め、西方は江尻、清水港、久能山を觀る、北は富嶽雲外に聳えて神々しく、其雄大なる光景は形容するに言なし。

清見ヶ關の古址は此の地に在る由なれど今は何處にあるや知るを得ず、清見寺は同驛より

り八町、駿河三ヶ寺の一にして有名なる寺なり、殊に寺境より南方を望めば、眼下に三保の松原、清見潟ありて眺望甚だ佳なり、又此寺は古昔より觀月の名所として普く世に知らる。

江尻海水浴

湖水清澄、且遠淺なれば危險少く海水浴場として又良所たるを失はず、東海道江尻驛より海岸迄は僅かに三町なり。

三保の松原は江尻より一里十町にして、清水港より渡船の便あり、海中に突出すること一里餘、怪松蜿々して相連り、翠色煙波と相

映じ、遙かに白帆順風を孕みて駛走する状、目を怡ばしめ心を昏醉せしむ、言傳への羽衣の事蹟は、今尙羽衣の松及其碑として殘存せり。

羽衣

「漁夫、風早の三保の浦わを漕ぐ舟の浦人さわぐ浪路かな。」

これは三保の松原に伯良と申す漁夫にて候、萬里の高山に雲たちまちに起り一樓の明月に雨はじめて晴れり、げに長閑なる時しもや、春の景色松原の波たちつゝ朝霞、月も残りの天の原、及びなき身のながめにも、心空なる景色かな、忘れ

めや、山路を分けて清見湯、はるかに三保の松原に立ちつれいさや通はん風向ふ雲の浮波立つと見て、釣せて人やかへらん、待てしばし春ならば、吹くも長閑けき朝風の松は常磐の聲ぞかし、波は音なき朝なきに釣人多き小舟哉。」

「春風や三保の松原清見寺」 鬼 賢

志太 鑛泉

藤枝驛より廿町にして志太鑛泉在り、此地開業以來日尙淺く、諸設備に缺けども閑雅なるを以て長所とす、四圍は綠樹綠草繁茂し、樹間より富士を視ふ趣は又別段にして寂寞を極

む、閑靜を好む人には恰好の地なり、鑛泉は腺病、瘰癧、皮膚病、佝僂質斯、胃病、脚氣于宮病に效驗ありと云ふ。

甲斐 國

猿橋 奇景

猿橋は大原村宇猿橋に在り、桂川此の地に流れ來りて其幅窄く兩岸相迫りて斷崖屹立し水勢急にして奔湍白玉を輾ばすが如し、其觀望又快偉なり、崖上に一橋を架す之れを呼んで猿橋と云ふ、橋下には一柱をも支ふるものなく、其構造自から建築法に適ふと謂ふ、蓋し

數百年前にして此の工ありしとは亦奇ならずや。

身延山 久遠寺

久遠寺は日蓮宗の總本山にして南巨摩郡身延村なる身延山麓に在り、堂宇は精美を極めて壯觀なり、毎年舊曆十月十二、十三の兩日を以て大法會を執行す、俗に之れを會式と稱し諸國の信徒群集して廣き殿内も立錫の地を餘さず、茂點の法燈は山中に輝きて偉觀なること他に比なし。

身延山の絶頂に芬陀利峯奥の院在り、日蓮上人屢々此の峯に登りて生國安房の方を望み

父母の墓を念ずること九年の長きに達すと言ひ傳ふ、山頂の眺望は甚だ廣濶にして、東南には遠く駿河伊豆の山水を望み、東北は富士川を隔て、國內の諸峯を兩眸の中に收む。

甲斐國の諸名所

武田信玄の墓 毎年四月十二日即ち信玄の命日を以て祭典を施行せらる。
御嶽山金櫻神社 日本武尊、少彥名命、素盞鳴尊を祀る、社前に古櫻樹あり金櫻と云ふ。
天目山 武田勝頼自盡の地なり。
河口湖 富士八湖中最も大なるものにして湖畔は眺望に富む。

遠江國

舞坂と氣賀

舞坂を訪はんとする者は、新橋にて乗車し遠州濱松驛の次驛なる舞坂に下車すべし。
舞坂は海水浴を以て其名高く浴場は濱名湖中の辨天島に在り、舞坂の南方は島も道はぬ渺茫たる遠州灘にして、西北は濱名湖を控へ東方は遙かに富士の高峯を仰ぐ、而して松樹の翠色は此の風光をして益々佳境たらしめ、涼風徐々に吹き來り三伏の苦熱を忘れしむ。
東方漸く白みて烟霧蒼翠滴るばかり、曉色

海を覆ひて海上平穩なり、暫時にして朝暾踊躍して海上に出て、海面は宛然鏡の如し、目眩して正視するに堪えず、其光景は到底想像するに難し、又夕陽漸く西山に沈み明月徐々と大空に昇りて濱名湖上を歩む、遙かに遠州灘の怒れる波濤の響きは松風と相和して恰かも琴曲を耳にするが如し、前者は快と叫び、絶と呼び、羽化登仙の想あり、後者は寂寥にして物凄く、恰かも清空迷宮の中に在るが如し。

濱名湖は南方今切に依りて太平洋と相接し、東西北の三面は連峯起伏して恰も屏風を立て廻したるが如し、湖岸に勝地多し、就中

館山寺の勝は彼の林鶴梁が激賞せし所なり。氣賀は濱名湖畔の稍や東北に位し、濱松より四里の間馬車の便あり、又舞坂より小舟にて湖水の風光を賞し乍ら行くも妙なり、此の地の風景は決して舞坂に譲らざれども、交通の便彼れに劣るが故に來り浴する者多からず。

遠江國の諸名所

菊川の里

「昔南陽縣之菊水汲下流延齡、今東海道之菊川宿西岸亡命、」

中納言宗行

小夜中山

西行法師

「年たけて又こゆべしと思ひきやいのちな
りけり小夜の中山」

秋葉神社 當社は秋葉山上に在りて軻遇突智
神を祀る、秋葉山は土地幽靜にして避暑に適
す。

井伊谷宮 宗良親王を祀る、親王の御墓は本
社の後山にあり、境内より濱名湖を望む風景
頗る愛すべし。

宗良親王

「夕暮はみなともそことしらすげの入海が
けてかすむ松原」

潮見坂 風景佳絶の地なり。

林羅山

「波浪雲天俱一色、東南溟海更無山、
聖門有街人何敢、潮見坂頭停馬看」

三河國

蒲郡海水浴

東海道蒲郡驛に下車し南方僅々數町にして海
濱に達す、蒲郡の前面は渥美灣なり、渥美灣
は尾張の知多半島と三河の渥美半島とが左右
より突出して灣を形成す、海上は油を流した
る如く平穩にして漁船の遠く白帆を孕みて漂

瀧せる、蓋し一幅の畫なり、海水浴場として
參州第一の地なるのみならず靜養地として又
屈指の地なりとす。

三河國の諸名所

鳳來寺 烟巖山と號し鳳來寺山の中腹に在り
當寺は推古天皇の勅願に依り僧利修の開創に
係り、爾後、文武天皇の御宇に及びて造立せ
しめ給ひし所にして、天台、眞言の二宗を兼
修し海道第一の靈場なり。
豐川稻荷 妙嚴寺境内に在り、堂宇結構にし
て神社に擬すと雖も安ずる處の佛像は叱枳尼
天にして稻荷の本體に非ずと云ふ。

潮見坂 風景佳絶の地なり。

林羅山

「波浪雲天俱一色、東南溟海更無山、
聖門有街人何敢、潮見坂頭停馬看」

三河國

蒲郡海水浴

東海道蒲郡驛に下車し南方僅々數町にして海
濱に達す、蒲郡の前面は渥美灣なり、渥美灣
は尾張の知多半島と三河の渥美半島とが左右
より突出して灣を形成す、海上は油を流した
る如く平穩にして漁船の遠く白帆を孕みて漂

前芝海水浴 豐川河口に在りて頗る風光に富
む。

圓福寺 淨土宗西山深草派の總本山にして寺
境は眺望に富む。

舉母村 古來著名の勝地なり。

忠隆

「白妙に咲き重れる卯の花は衣の里の妻に
ぞありける」

矢矧橋 矢矧川に架す、豐太閤少時此の橋上
に臥し蜂須賀小六に會し後に天下を一統す。

尾張國

師崎海水浴

東海道大府驛にて武豊線に乗換へ武豊驛にて下車し、南方五里にして師崎に至る。

師崎は尾張知多半島の極端に位し、左方は三河の伊良湖崎、右方は伊勢志摩の諸峯を望みて風光明媚なるのみならず、夏期は波濤静穩にして汚物なく海水浴に適するを以て四方の浴客陸續來集す。

師崎の西凡そ一里許にして豊濱海水浴場あり。

大野海水浴

武豊線半田驛より行程三里にして大野に達す。

此の地は西に伊勢灣を擁して遙かに四日市と相對し、浪靜かにして海水浴に適す。傳ふる所に依れば此の海水浴場は我邦海水浴の嚆矢にして、光嚴天皇の御宇即ち今を去る五百五十餘年前に此の地の海水に浴して病痾を治したる者ありしと。

熱田神宮

熱田神宮に參詣せんとする者は東海道熱田驛に下車す可し、神宮は熱田旗屋町に鎮す。

祭神は五座にして、日本尊を中央とし、左右に、天照大神、素戔鳴命、宮簀媛命及び建稻種命を祀り、正殿の東方土用殿に草薙の劍

を齋祀して其神體とす、疆域廣濶にして本殿を始めとし渡殿、釣殿、祭文殿、拜殿、勅使殿、神樂所、神輿舎、神庫等相連りて壯麗を盡せり。

社後の森林中に在る小丘を雪見山と云ふ、刑部少輔平雅連の歌に「神さびていや影高き松杉に雲見る山は幾世經ぬらん」と詠じたるは此の山なり、赤染衛門が本社に參詣の時鶴の鳴くを聞き「鶴の聲するほどは急がれてまだ道中の杜といへども」と詠ぜし中の杜は清雪門の邊を云ふ。

尾張國の諸名所

野並梅林 春日開花の候に至れば杖を曳く幽人多し。

豊太閤誕生地 卑賤より身を起して遂に天下を一統し朝鮮及明土を迄攻め落さんとしたる太閤は、織豊村大字中村に生る、秀吉の父竹阿彌の宅址と傳ふるものあり、其西傍に豊國神社あり、社殿高潔にして境域瀟洒なり。

名古屋城 天下無類の名城として有名なる名古屋城は名古屋市の北部に位す、天主閣上の金鯨は此の城の美名を添ふる所以にして、高さ八尺五寸、胴の周圍七尺三寸あり、現今は第三師團司令部の所在地たり。兩本願寺別院 共に名古屋市内の寺院中に於

て宏壯之れに優るものなし。
 櫻天満宮。名古屋市にあり、菅原道真の靈を祀る、社前賽人の影常に絶えず。
 津島神社。素戔嗚命以下八神を合祀す、織田信長深く本社を崇信し、遂に天下を平ぐるに及びて社殿を建營せり。

伊勢國

伊勢大廟

伊勢と云へば伊勢大廟を想起せざるものなく、一度伊勢國に足を入るゝものは必ず大廟を參拜するなるべし。

新橋より名古屋に至りて關西線に乗りかへ山田驛に下車すべし。

伊勢大廟は之れを内宮、外宮の二に分ち相距ること二十町、共に山田市の南端に位す。

内宮は我國の總廟にして、天祖天照大神を奉祀せるものなり、此の大神は、崇神天皇の御宇迄は宮中に奉祀し玉ひしが、天皇其神威を演し奉らんことを懼れ玉ひて大和笠縫の里に移し奉れり、後、垂仁天皇の御宇、倭姫命、神勅によりて此の五十鈴川の邊に奉祀し、三種の神器の内の八咫の御鏡を以て神靈と崇め奉る、而して今日に及べり。

宇治橋を渡りて神苑に入る間は幾千年を経

たる杉檜は森然として屹立し、地に寸埃だになく、其莊嚴の狀人をして肅然襟を正さしむ先づ御裳川の岸に下りて兩手を清淨し、鞠躬して進み、玉串御門の下に跪つき、遙かに幽邃なる正殿を拜する時は、國祖の神靈永へに大八洲を護らせ給ひ、皇國の基礎萬代に搖がじと思はれて有難し。

内宮に在る別宮は荒祭宮、月讀宮、月讀荒魂の宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、風日祈宮及攝社三十五末社十六座なり。

外宮は山田ヶ原に在りて其附近の丘陵を高倉山と稱す、本社には豐受大神を祀り、雄略天皇の廿二年創建す、大神宮に後ること實

に四百八十二年なり、境内廣寬を極め、社殿莊高にして、神威殿として存し、人をして知らず知らず其襟を正さしむ。

外宮に在る別宮は多賀宮、土宮、月讀宮、風宮にして四所の宮と稱す、其他攝社十六末社八座在り。

二見ヶ浦

二見ヶ浦は伊勢第一の勝區にして山田市を距る東方二里強、度會郡立石江村の西北海濱に在り。

二見の海岸數間を隔て、二箇の岩あり、大なるものは二十九尺、小なるものは十二尺に

して、岩色は蒼潤、一は仰ぐが如く、一は俯すが如し、相距ること二丈餘、二岩の間に注連繩を張る、注連朽つる時は之れを新たにし常に絶ゆることなし、退潮の際は歩いて此の岩に至ることを得べく、又其近傍には鯨石、鼻石、雞冠岩。屏風岩など散在す。

二見の浦は潮清く砂白くして夏期は海水浴に適し且つ遠く參尾の諸山を烟波の上に見、快晴の際には遙かに宮嶽を望むべし、海岸の邊には巖石起伏して風光明媚なるを以て遊覽者の集り來る者常に多し。

二見の背面に雄然として聳ゆる山を朝熊山と云ふ、山頂の眺望は雄大にして駿尾參の諸

山を双眼の内に收め、脚下なる伊勢の海は恰かも一大鏡の如く、其壯絶の景は大家の妙筆もよく盡す所にあらず、山中に勝峰山金剛寺在り、臨濟宗にして山城の南禪寺に屬し、仁王堂、十三佛堂、護摩堂、舍利堂等あり、本堂は九間四面にして虚空藏菩薩を安置し結構壯麗を極む。

伊勢國の諸名所

多度山 山中の風景佳し。

梁川 星巖

「自從携家向三都、只願誅第住八壺、請見石飛泉立處、天然一幅大癡圖、」

伊賀國

伊賀國の名所

赤目四十八瀧 赤目山中に在り伊賀第一の壯觀なり、其他赤目山に奇勝多し。

上野公園 舊と上野城天守の舊址なりしを明治十九年に公園とせらる、國內有數の勝區なり。
等夜野

家 隆

「立かへりまたもきて見むはしたかのとやのをいづる秋の夜の月」

能○獲○野○神○社 日本武尊の陵所なり。
鈴○鹿○山 坂路屈曲峻嶮にして山頂に鈴鹿神社在り、天照大神を奉祀す。

西行法師

「鈴鹿山浮世をよそに振りすて、いかになり行く我身なるらん」

專○修○寺 眞宗高田派の總本山なり、堂宇壯大なり。
阿○漕○の○浦 青松相連りて白沙と相映帶する風光は宛然畫圖の如し。

芭 蕉

「月の夜をなにを阿古木になく千鳥」

志摩國

志摩國の諸名所

日和山 鳥羽町の西北に在る一小丘にして眺望に富む。

芭蕉

「櫻一ツ見つけて嬉し伊良湖崎」

答志島と菅島 兩島共に其風景佳絶なり。白濱 眺望廣大なり。

寂念

「雪の色におなじしらなみの濱千鳥聲さへさゆる曙の空」

信濃國

輕井澤

輕井澤は東京より約五時間にして達す、地は長野縣北佐久郡に屬し、碓氷嶺の西高原の中に在りて四面皆山を以て圍繞せられ、淺間の活火山其北に聳え、釜戸岩、離山に對し、展望開濶なり。雲間川の清流は驛を貫き、飲用水清く、夏期の暑さを凌ぐ好適地なり、此地は海面を抜くと實に三千八百尺、炎暑赫赫として燒くが如き時も、此の地は初秋の如く、加ふるに四顧皆綠翠樹木にして、涼風枝葉を

動かす恍惚として仙境に徜徉する感あり。

古へ、景行天皇の皇子日本武尊、御東征の歸途、碓氷嶺に登り給ひ、東望して橘ヶ姫のことを御追想遊されて嗚呼香孃耶わがつまやと宣ひしは碓氷嶺の中の留夫の山なりと云ふ。

淺間山は有名なる活火山にして海面を抜くこと八千三百尺、頂上より絶えず白烟を噴出し、時に灰又は砂礫を降らすことあり。

別所温泉、泉

汽車は輕井澤小諸大屋の諸驛を経て上田驛に着す、別所温泉は上田町を距る西方二里半にして小縣郡に屬す、上田より馬車の便あり。

泉質は硫黄泉にして脚氣、痲瘋質斯に效ありと云ふ、當温泉附近の名所には温泉神社、常樂寺、安樂寺、厄除觀音等あり。小縣部には諸所に温泉湧出す、香掛温泉、靈泉寺温泉、鹿掛湯温泉等名高く、皆閑靜にして物價低廉なり。

善光寺

上野驛より約八時間にして長野驛に着す、善光寺は定額山と號し長野市の北端に在り、當寺は天智天皇の草創にして、古は天台宗なりしが後ち眞言宗となり高野山に屬し、又寛永年中東叡山に屬して再び天台宗に歸す、本

尊は圓浮檀金の阿彌陀如來にして、世に一光三尊佛と稱す、毎歲舊曆三月十五日及十月十五日の兩日に會式を行ひ、六月十三日十四日の兩日は大法會を執行す、此の日は賽人四方より來集し其賑ひ甚し。

湯田中温泉及澁温泉

信越線豊野驛にて下車し、東方四里餘を行けば湯田中温泉あり、當温泉は、天智天皇の御宇、僧知由の發見する所、泉質は鹽類泉にして、無色透明、天然の温度は華氏百六十度、浴槽にて適宜に水を交へて浴す、其效能は痲質斯、貧血性、腺病、皮膚病等に效あり。

湯田中温泉の東に隣り相距ること僅かに數町にして澁温泉場在り、澁温泉は淺間、諏訪の温泉と共に信濃に於ける有名なる温泉なり地は海面を抜くこと千七百尺なれば略々其氣候を知るべく、東北には山嶽綿互し、星川の清流南に流れ、風景頗る優雅なり、泉質は無色透明なる鹽類泉、成分温度共に湯田中温泉に類似す。

淺間温泉

信州の數ある温泉中、淺間温泉最も世人に知らる。飯田町停車場より乗車すれば約十一時間にして松本驛に着す、淺間温泉は松本市を

距る東方一里、東筑摩郡淺間村に屬す。

淺間温泉は土地高燥、空氣清鮮、東方に小丘を負ひ、西南に田畑を見晴らす、其風光田圃の野趣ありて都人士には頗る興味あり、泉質は單純泉にして、無色透明、無臭無味なり其湧口は非常に多く、凡て六十餘ヶ所、御殿湯、菊の湯、玉の湯、寶の湯、錦の湯、鶴の湯、龜の湯等一々列擧し難し、效能は痲質斯、痛風、神經痛、貧血性、皮膚病に宜しと云ふ。

淺間温泉場を距ること十町、宇大村に女鳥羽の瀧あり、高さ甚だ大ならずと雖も、水清くして恰も匹練を懸けたるが如し、散策の杖

を曳く浴客多し。

諏訪温泉

上諏訪にあるものを千の湯、小和田湯、土湯精進湯、蟲湯、大脇の湯、島崎湯とし、泉質は硫黄泉に屬し、下諏訪にあるもの綿の湯、無名湯、小湯と稱して鹽類泉に屬す、痔疾、貧血性、皮膚病に效あり。

當温泉に至るには飯田町驛より乗車し約十時間の後上諏訪驛に着す、而して上諏訪の次驛は下諏訪驛なり。

上諏訪には上諏訪春の宮あり、下諏訪には下諏訪秋の宮あり、共に社格官幣中社にして

健御名方命を祀る、即ち立春より立秋迄靈を
上諏訪に奉祀し、立秋より立春迄靈を下諏訪
の秋の宮に移す、以て春秋兩宮の名ある所以
を知るべし。

諏訪湖は和田峠の西麓に在り、鵜湖とも稱
す、周回四里餘にして、山廓水村之れに匝り
其風景絶佳なり、天龍川は此の湖に源を發し
て遠江に流る、冬期に至れば湖上堅氷を結び
て其上に人馬を通ず、又漁人は氷を穿つて夜
魚を採る。

寐覺の床

木曾の急流此處に至り迫りて瀨となり潭とな

り兩岸に奇岩怪岩重疊起伏し其風景の快絶な
ること誠に木曾山中第一の奇勝なり、此の勝
を採らんとする者は中央線福島驛に下車すべ
し。

近衛家 源

「谷川の音には夢もむすばしを寐覺の床と
誰か名づけん」

頼 實

「雲もなほ下に立ちける懸橋のはるかに高
き岐蘇の山みち」

飛驒國

飛驒國の諸名所

白水の瀑

白川村大字平瀬にあり、源を白山千蛇ヶ池
に發し、瀑布の壯大なること那智、嵯峨に
一步を抜く、たゞ僻陬の地に在るを以て世
人之を知らず。
斐太の細江

「名に聞く細江のかたを遙かに見やりて、
峯こえる月もうつらさ夏山や斐太の細江
の夕暮の空、立山の麓を過ぎて越中の國
にうつり待りぬ。」と慈惠法師の紀行にあ
り。

美濃國

中央部

長良川の鵜飼

岐阜と共に吾人は直ちに長良川の鵜飼の奇觀
を想起す、夏より秋にかけて岐阜地方に遊ぶ
者は殆んど此の鵜飼を見物せざる者なし。

鵜飼は夏期の清遊として古來より名高く、
毎年六月より十月中旬迄月夜を除く外毎夜流
舟を長良川に泛べ、鵜を放つて香魚を捕へし
む、鵜匠一人にて鵜十二羽を使ひ、手繩を繰
りさばきて之れを操縦すること頗る敏捷なり
交る交る鵜は香魚を咬へて水より舟に、舟よ
り水に、飛び交ふ状は實に奇觀にして、夜暗
の篝火川波に映りてきらめく状は言語に絶

す。
岐阜市の東北に稻葉山(金華山とも稱す)在り、眺望に富む。

梁川 星 巖

「一輕葉舟儘自由。金華山影濛中流。蛟々不盡沙禽語。聽到西溪十八樓」

在原 業 平

「たちわかれ稻葉の山の峰におふるまつと
しきかばいまかへりこん」

細川 幽 齋

「あまつ星くもりゆくかといさりひの影見え初むるをちの夜川に」

松尾 芭 蕉

「面白うてやがて悲しき鶴飼哉」

養老の瀑

大垣驛より養老瀑邊迄三里の間人力車の便あり、瀑の高さ十丈、幅二間餘にして、自然の美は人工の妙と相俟つて其風光絶佳なり、瀧壺は一枚の巖石よりなり水淺し、斯かる大瀑布の水の落ち来る處僅かに膝を没するに過ぎざるは誠に奇と謂ふ可し。

續日本記中に「元正帝の御宇、此の美泉始めて顯れたるを天皇聞召し、靈龜三年九月此の處に行幸遊され、養老の水にて御面を洗ひ給ひ、又御痛所に滌ぎ給ひしに、御痛

忽ち癒へて其驗し著しかりしかば、還幸の後年號を改めて養老とせられ、天下に大赦を行ひ給ひし」とあり。
瀑布の附近に養老神社あり、又養老寺あり、避暑には適當の地なり。

梁川 星 巖

「養老改元光史編。至今百丈瀑泉懸。寒風珠玉噴爲雨。白日雷霆轟在天。」

知 紀

「昔より名にも流れて老人の齡ををつなぐたきの白糸」

不破の關屋

大垣驛より垂井を経て關ヶ原驛に着す、關ヶ原は慶長五年徳川家康と石田三成とが雌雄を決したる古戰場なり、不破の關屋は此の驛の西十五町なり。

山帶城雲連

「管降天兵百萬師。關原草木亂旌旗。蚩尤風雨驚三鼓。黃帝干戈止一麾。」

信 實

「秋風に不破の關屋のあれまくもをしからぬまで月ぞもりくる」

十六夜日記

「ひま多き不破の關屋は此のほどの時雨も月も如何に漏るらん」

芭蕉
「秋風や藪も島も不破の關」

近江國

近江八景

武州金澤八景を始めとして、世に入景と稱する勝地は非常に多く一々枚舉に遑あらずと雖も、近江八景の秀麗なるに優るものなし、此の近江八景とは、三井の晚鐘、石山の秋月、聖田の落雁、栗津の晴嵐、矢橋の歸帆、比良の暮雪、唐崎の夜雨、勢田の夕照にして、周圍七十餘里の烟波滉洋として終古碧落し、古

昔より幾多の詩人、歌人が吟詠を殘すと雖も未だ其風景を道破し能はざる琵琶の湖の沿岸絶倫の位置に散在せり。
三井寺、長等山園城寺と號す、堂宇結構を極む、辨慶の引摺しと傳ふる鐘は鐘堂に存す、山腹に觀音堂在り、眺望甚だ空濶なり、眼下には鶴翼の町を控へ、遠く目を放てば多景、竹生の諸島は波烟の間に隱顯し、鏡面の如き湖は小波をたゞへて音疊を敷きたる如く、八景を一々指摘し得る光景は、人をして右顧左眄飽くことを知らざらしむ。

林 長老

「湖面朦朧畫不成。昏鯨高響出圍城。」

霞間好是客船月。十倍風橋半夜聲。」

石山寺 石山驛を距る二十町、石山は全山皆石にして其名を誣ひざるなり、觀月の名所として名高く、綠樹の間より琵琶の湖を望む風光甚だ佳なり、石山寺に源氏の間と云ふあり昔紫式部が此の部屋にて源氏物語を著はせりと言ひ傳ふ。

勢田の長橋 石山驛より九町にて達す、琵琶湖の水流れて勢田川となり山城に入りて宇治川と呼ぶ、此の勢田川に架したる橋にして昔は瀬田の唐橋と稱したり、夕陽の西山に落つる頃小舟を備ひて此の川に網を投ずるの清興又捨つべきに非ず。

兼 盛
「みつき物絶えずそなふる東路のせたの長橋音もとゝるに」
唐崎の松 松の高き三丈余、幹の周圍五尋にして古色蒼然、枝葉撥がりて湖上に舒び、宛然蟠龍に似たり。

桃 青

「唐崎の松は花より朧にて」

比良山 海拔三千尺、老樹繁茂して寂寞を極む、初冬より三月迄は常に白雪を戴く、山中の獅子谷には溶潭あり、近江第一の飛泉なり。
栗津ヶ原 勢田橋本より膳所村に至る街道松

原を粟津ヶ原と云ふ、此の地は彼の旭將軍木曾義仲が戦死したる舊址にして義仲寺には義仲の墓並に芭蕉の墓あり。

梁川星巖

「更有何人薦藻蓼。澹煙微雨鎖黃昏。」

湖南三尺無情士。瘞却英雄未死魂。」

芭蕉

「木曾殿と背中合せの寒さ哉」

聖田浮御堂。馬場驛より北方四里、汽船の便もあれば湖上の風景を賞して行くも宜し、湖の沿岸に満月寺在り、汀岸の邊に一橋を架して湖中に觀音堂を置く、恰も微瀾の上に浮ぶが如し、之れを浮御堂と云ふ。

芭蕉

「鎮あけて月さし入ふ浮御堂」

矢橋の浦。大津より汽船の便あり、此浦は大津打出ヶ濱と相對して風景頗る愛すべし。

林一長老

「釣竿手熟白頭翁。辛苦客船西又東。」

幾度風帆歸去後。呂公榮達一杯中。」

近江國の諸名所

竹生島。琵琶湖中の稍々北方に位する島にして周圍廿六町、全島巖石より成る、島上に都久夫須麻神社在り、倉稻魂神を祀る、是れ竹生島の辨財天なり、其南に觀音堂あり、寶巖寺

に屬し西國三十番の札所なり。

島中遼然として大古の如く、只だ禽鳥の嘶叫すると、志賀の浦風に琴曲を彈ずる老樹の音のみ。

日吉神社。大山咋尊を祀る。

余吾湖及賤ヶ嶽。柴田勝家と羽柴秀吉とが雌雄を決したる古戰場なり。

三上山。一名近江富士と云ひ其形狀富士に似たり。

淨助親王

「雪晴る、三上の山の秋風に小波遠く出づ

る月影」

彦根公園。井伊氏の居城たりしを公園となせ

り、樂々園八勝の撰あり。

越後國

越後國の諸名所

赤倉温泉。信越線田口驛より西方一里半に位す、當温泉の背後には妙高山あり、右には龜山左には黒姫山屹立し、北方は遠く開けて風致閑雅なり、温泉は皮膚病、腫物、痔疾に效あり、其泉質は不詳なり、四時共に浴客充満す。
彌彦神社。彌彦山麓に在り、天香語山命を祀る。

新湯公園 新潟市唯一の公園なり。
阿賀川 東蒲原郡津川町より阿賀の川を下る
風景は未だ世人の知らざる絶景を有す。

佐渡國

佐渡國の諸名所

眞野宮 順徳天皇を祀る、天皇は北條義時の
ために此の地に遷され給ひ、遂に崩御ましま
しぬ。
黒木御所舊址 順徳天皇の皇居の址なり。

順徳天皇

「帝けば聞くきけば都の戀しきに此里過ぎ

山杜鵑

越中國

越中國の諸名所

小川温泉 泉質は炭酸泉(舊湯)と鹽類泉(新
湯)との二あり。
立山 越中第一の高山にして山嶺に雄山神社
在り、夏日參詣者多し。
二上山 月と紅葉との名所なり。

大伴家持

「ますかみ二上山にこのくれのしげき谷
へをよびとよめ朝とひわたり」

能登國

能登國の諸名所

總持寺 曹洞宗本山の一なり。
和倉温泉 北陸道に於ける屈指の温泉場にし
て泉質は鹽類泉なり、四顧の景趣佳麗にして
心神を洗ふに適す。

加賀國

加賀國の諸名所

山中温泉 北陸線大聖寺驛より一里半、鐵道

中央部

馬車の便あり、江沼郡山中村大聖寺川の西岸
に位す、風景の幽邃を以て其名高く實に北陸
第一の温泉場とす。

泉質は鹽類泉にして僕麻質斯、胃弱、貧血
性に效驗ありと云ふ。

芭蕉

「山中や菊は手折らず湯の香ひ」

梅室

「山中やものたる上の杜鵑」

山代温泉 大聖寺町の東南一里餘にして山代
温泉に至る、前記山中温泉と共に北陸道にて
有名なる温泉とす。

白山 日本三山の一にして絶頂に白山嶺神社

在り。
 兼六公園 金澤市の公園にして兼六の名は松
 平定信(樂翁)の命名するところなり、公園の
 面積は約二萬四千坪、園内には丘陵起伏し、
 緑樹生ひ茂り、中央に泉水ありて景致幽媚を
 極む、此の公園は、舊と前田侯の庭園たりし
 が、明治四年に至りて公園となり、岡山の後
 樂園、水戸の偕樂園と共に日本三公園と稱せ
 らる。

越前國

越前國の諸名所

永平寺 禪宗曹洞派の本山にして北陸道に於
 ける著名の巨刹なり。
 藤島神社 忠臣新田義貞を祀る。
 氣比神社 官幣大社にして御食津大神、仲哀
 天皇、神功皇后を祀る。
 金崎の宮 尊良親王、恒良親王を祀る。
 三國東陣坊淵 怪岩屏風を立て廻したる如く
 其風光眞に氣宇を爽快ならしむ。
 蘆原温泉 泉質は鹽類泉にして皮膚病消化不
 良に效驗あり。

芭

蕉

「山路来て何やらゆかし葦草」

若狭國

若狭國の諸名所

高濱ヶ浦 景致壯大、海岸は海水浴に適す。
 外出ヶ濱 斷崖峭立して風光清麗なり。

畿内

山城國

京都市内の諸名所

京都市は、桓武天皇建都の時より明治維新の

畿内

遷都に至る一千有餘年、朝を歴ること七十二
 代の間、帝國の政治は一に此の地に出でたり、
 今や帝都は東京に遷りしたため往時の繁榮を減
 殺したりと雖も市の内外には名勝舊蹟至る處
 に散在し、且山水明媚にして市街清潔なれば
 諸國より此の地に來り遊ぶ者四季共に多し。
 舊内裏及び仙洞御所 舊内裏は代々の天皇の
 おはせし所、仙洞御所は上皇の宸居なり、共
 に京都市の北部に在り。
 八坂神社 祭神は素盞鳴尊にして稻田姬命及
 び八王子を配祀す、毎歲七月十七日と二十四
 日に例祭を施行せらる、之れ有名なる京都の
 祇園會にして美觀無比なり。

知恩院 當寺は華頂山大谷寺と號し淨土宗鎮西派の總本山なり、其堂宇の壯大なること東山第一なり。
 圓山公園 小丘在り池在りて四時の眺望に富む、世に著名なる祇園の枝垂櫻(俗に夜櫻と云ふ)は園の中央に存す。
 建仁寺 禪宗濟家派の巨刹なり。
 高臺寺 當寺も禪宗濟家派に屬し古へより萩花の名所として聞ゆ。
 清水寺 當寺は音羽山と號し西國三十三所の札所の一なり、寺境の崖下なる新高雄は櫻花と紅葉の名所にして其季節には杖を曳く雅人非常多し。

大佛殿方廣寺 天正六年豐臣秀吉の創建する所にして古へは殿宇偉大なりしと雖も、慶長年間惜哉火災に罹りて滅亡し現今は唯石垣の巨大なるを遺すのみ。
 豐國神社 豐臣秀吉の靈を祀る、社後の阿彌陀峯には秀吉の遺骸を葬る。
 三十三間堂 當寺は蓮華院と號し天台宗に屬する名刹なり。
 泉涌寺 當寺は法輪寺と號し弘法大師の開基にかゝる、寺境には 後水尾天皇以來歴代の帝陵在り、寺域廣潤にして老樹鬱蒼として繁茂し宛然仙境に似たり。
 東西兩本願寺 兩寺共に眞宗の本山なり(西

本願寺は本派と稱し、東本願寺は大谷派と稱す(全國に於て最も宗徒に富める寺にして日々諸國より來賽する者非常に多し。
 佛光寺 什谷山と號し眞宗佛光寺派の本山なり。
 本能寺 日隆上人の開基する所にして法華宗に屬す。
 護王神社 忠臣和氣清麻呂の靈を祀る。
 梨木神社 祭神は維新の元勳三條實美なり。
 相國寺 當寺は禪宗の巨刹にして夢想國師の開基にかゝる、寺境は極めて幽寂なり。
 白峯神社 崇徳天皇及び、淳仁天皇の靈を祀る。

六角堂 堂宇の形狀六角形なるを以て其名あり、天台宗に屬し聖德太子の開基にかゝる。
 二條城離宮 慶長年間徳川家康の再築せし二條城を明治に至り離宮に充てらる。
 北野神社 俗に北野天神と云ひ菅原道眞を祀る、境内に梅樹多し。
 加茂川の夕涼 夏季には加茂川原に茶亭の設けありて市民の此の所に來りて涼をとる者多し、よりに加茂の夕涼と云ふ。
 疏水運河 前知事北垣國道の起工する所にして近江の琵琶湖より水を引く、其延長約五里許り實に大工事と云ふべし。
 平安神宮 桓武天皇を奉祀す、社地清潔にし

て社殿は丹亞を以て彩られ美観なり。
 南禪寺 無闕知尙の創建にして寺域六萬有餘坪、老松繁茂して閑雅の境なり。
 永観堂 淨土宗西山派に屬し櫻楓の勝地なり
 若王寺社 永観堂と共に櫻楓の名所として其名を知られ季節には瓢をたづさへて杖を曳く雅人多し。
 銀閣寺 足利義政が閑居せし所なり、庭園は自然の美に人工の妙を加へ盡し、彼の有名な銀閣は其一眸に屹立す。
 眞如堂 天台宗に屬し本尊は慈覺大師の作と稱する阿彌陀佛なり。
 吉田神社 祭神は武甕槌神、經津主神、天兒

屋命及姫神の四座なり、社境は眺望廣潤にして春日の風致特に佳し。

山城國の諸名所

加茂御祖神社 多々須玉依毗賣命及び大山咋神を祀る、當社は俗に上加茂神社と云ひ、其社殿の宏壯にして境内の森嚴なること比近に於て多く類を見ず。
 加茂別雷神社 俗に下加茂神社と稱し、別雷神を祀る、社殿の結構なること御祖神社に譲らず。
 修學院離宮 後水尾天皇離宮の舊址を明治に至り再び離宮とせられしなり。

比叡山 山容富士に似るを以て一名都富士と稱す、山中に名勝古蹟多し。
 建勳神社 織田信長の靈を祀る。
 大徳寺 俗に紫野大徳寺と稱し、大燈國師の開基にかゝる、寺域廣大にして幽寂なり。
 貴船神社 祭神は水神罔象神なり、請雨止雨の神として世に聞ゆ。
 平野神社 日本武尊、仲哀天皇、仁徳天皇を合祀す、境内には櫻樹多し。
 金閣寺 足利義満の築造する所にして境内の雅致、林泉の巧緻なる敢て銀閣寺に劣らず、著名なる三層の金閣は池畔に屹立す。
 御室仁和寺 當寺は眞言密乗の巨刹なり、寺

内に櫻樹數百株ありて其態様の變異なるを以て有名なり。
 等持院 當寺は足利尊氏の創建にして萬年山と號す、足利氏累代の像は寺内の照堂に安置す。
 嵐山 山麓に大堰川流る、川に一橋を架す之れを渡月橋と云ふ、山中に櫻楓の二樹多く春秋の二季は近畿の雅客陸續來集す。
 梅宮神社 祭神は酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神の四神なり。
 高雄・樽尾・槇尾 此の三山は共に全山皆楓樹にして紅葉の名所として其名天下に高し。

東福寺 當寺は慧日山と號し天台宗に屬す、寺内の通天は紅葉の勝區なり。
 稻荷神社 當社は名高き伏見の稻荷にして倉稻魂命、素盞鳴命、大市比賣神を祀る。日々諸國より來賽する者非常に多し。
 桃山 梅花の名所として有名なり。山中には豐公が工を起せし桃山御殿の舊址あり。
 巨池 俗に大池と呼び周圍四里に餘る大瀦なり。
 大原野神社 武甕槌神、經津主神、天兒屋命、姫神の四神の靈を祀る。
 長岡蓋部 桓武天皇始めて大和より遷都せさせ玉ひし所なり。

柳谷觀音 寺を楊谷寺と云ふ、此の觀音は眼病者に效驗著しと言ひ傳ふ。
 醍醐寺 聖賢尊師の開祖する所、伽藍は二分れ一は醍醐山上に一は醍醐山麓に在り。
 平等院 天台宗にして本殿は即ち世に著名なる鳳凰堂なり。
 男山神社 祭神は應神天皇、神功皇后、玉依姫命の三座なり、神殿の麗麗なることは他に比なく、彼の有名なる黄金の雨樋は此の社に在り。
 笠置山 此の山は後醍醐天皇皇居の蹟にして山中には名勝古蹟多く、又山麓を流る、木津川には奇景多し。

大和國

大和國の諸名所

大和國は山城國と共に我國の舊都の所在地なれば従つて名所舊蹟至る處に散在す、次に重要なものを揭示すべし。
 春日神社 社殿は宏壯華麗にして境内の面積は實に三十萬有餘坪あり、祭る所の神は武甕槌神、經津主神、天兒屋命、姫神の四神とす、此の社は古來より燈籠の數多きを以て名高く其數は二千七百餘に及ぶ。
 雪消澤 澤邊の幽趣は韵士の愛賞する所に

して古來より之れを詠じたる國風多し。

崇徳天皇

「春來れば雪消の澤に袖たれてまだうらわかき若葉をぞ摘む」

東大寺 聖武天皇の御宇神龜元年に草創せられたる巨刹にして有名なる大佛は當寺の本尊なり、大佛は盧舍那佛の座形にして其長け五丈三尺餘なり、而して之れを容る、殿舎は高さ十五丈六尺、東西二十九丈、南北十七丈に亘る。
 三月堂 法華寺と稱し良辨僧正の開基する所なり。
 二月堂 羅索院と號し實忠和尚の開基にかゝ

興福寺 俗に春日寺と云ふ、堂宇に南圓堂、北圓堂、五重塔等あり、就中南圓堂は其名高く藤原冬嗣の創建する所なり、寺院より猿澤の池を見下す景又捨つべきに非ず、猿澤の池は周圍百八十餘間、池中に鯉魚多し。月ヶ瀬梅林 梅花の名所として天下廣しと雖も之れに比肩する地なし。石上神社 祭るところ十握の御劍にて境域極めて高潔なり。大和神社 垂仁天皇の御宇二十五年の創建にして祭神は倭大國魂神、八千弋神及び御牟神の三神なり。

龍田川 紅葉の名所として聞え古人の詠歌少なからず。法隆寺 建初以來其舊形を改めず、珍寶堂に滿つ、實に我國未曾有の名刹なり。龍田神社 天御柱命、國御柱命を祀り 崇神天皇の御宇の創建なり。廣瀬神社 天武天皇の御宇白鳳四年の創建にかゝり、祭神は若宇迦能賣命なり。大神神社 當社は三輪山の麓に位し大物主命を祀る、社殿壯嚴にして犯すべからず。長谷寺 豐山神樂院と號し堂宇結構を極めたりしが頃日火災に罹りて昔日の面影なし、然れども再建の議あり。

談山神社 多武峯の山腹に在りて正一位藤原鎌足を祭る、社殿の宏壯、境域の幽邃なること日光山に比肩すべし。山中に華嚴瀑あり、瀑邊は寂寞を極め鬼氣人に迫る。壺阪寺 南法華寺と號し本尊は千手觀音にして西國三十三所の札所とす。南淵山 此の山を詠みし國風多し。

「五月雨の渡る淺瀬もなかりけり南淵山の

谷の川水」

極原神宮 此の宮は人皇第一代、神武天皇の尊靈を奉祀す、現今の神宮所在地は往古の極原の舊址なりと云ふ、神宮の後に小山あり之れ有名なる畝傍山にして耳成山、香久山と共に

に大和の三山と稱せらる。吉野山 當山は櫻花の名所として我國第一の地なるのみならず、南朝史上著名の古蹟たり、山中の藏王堂、吉水神社、如意輪寺、勝手社は人もよく知る處なり。

後醍醐天皇

「花に寐てよしや吉野の吉水の枕の下に石はしる音」

後醍醐天皇

「憑むかひなきにつけても盟ひてし勝手の神の名こそ惜しけれ」

山上ヶ嶽 絶頂に藏王堂ありて夏時は諸國の信徒參詣す、俗に行者參りと云ふは之れなり。

丹生川上神社 罔象女神を祀る此の神は晴雨の神なり。賀名生行宮址 後醍醐天皇皇居の址なり。

河内國

河内國の諸名所

四條畷神社 當社は飯盛山麓に位し南朝の忠臣楠正行及び其一族戦死者の靈を祀る、境内の眺望爽快にして櫻花の候は特に佳し。野崎の觀音 福聚山慈服寺と號し本尊は長け三尺五寸の十一面觀世音なり。狹山の池 古歌に「春深み狹山の池のれぬな

はのくるしけもなく鳴く蛙哉」とあり。金剛山 山腹に正成の籠城したる千早城址あり、又山頂に金剛山寺あり、其他古蹟多し。觀心寺 當寺は眞言宗に屬し、僧實慧の開基にして楠家の菩提寺なり。

和泉國

和泉國の諸名所

堺大濱及び濱寺公園 大阪市は人口百萬以上の大都會なれども公園の完全なるもの一もなし、故に市民は堺又は濱寺に來りて遊ぶを常とす、大阪難波驛より堺及び濱寺迄の間には

攝津國

攝津國の諸名所

電車汽車の便あり、而して濱寺は堺市の南方約一里にして其風光の明媚なること堺に一頭地を抜く、共に海水浴場として天下に名あり。信太の森 祠在りて白狐の靈を祀る、傳説あれども俗にわたるを以て之れを省く。深日の浦 眺望に富む古人の詠歌多し、次に一二を掲ぐ。

藤原家基

「さよ千島ふけひの浦に音づれて繪島が磯に日かたぶきり」

榎中納言定家

「越す波にわが世ふけひのうらみ來て打寐る夢も此頃ぞ見る」

燥にして大阪全市を双眸の内に集む。

生國魂神社 祭神は生國魂神、足國魂神なり、

殿宇清洒にして嚴整なり。

四天王寺 聖德太子の創設せられし有名なる

古刹なり、境内の鐘堂には日本一の大なる鐘

を安置す、其他寺内には觀るべきもの多く、

賽人常に群集して雑沓を極む。

天下茶屋 豊公の歴々休息せし茶亭在り、因

りて天下茶屋の名あり。

住吉神社 當社は底筒男命、表筒男命、中筒

男命及び神功皇后を併祀す、社殿の構造古風

にして、神威の嚴なるを覺ゆ、著名なる住吉

の反橋は社前の神池に架せり。

泪池の古址 吹田村附近に在りと云へども
現今は説多くして判然せず。

西行法師

「よしさらば涙の池に身をなして心のまゝ

に月やどらなん」

櫻井驛 世人も知る如く楠正成が其子正行を

招き遺訓を垂れて訣別せし舊址なり。

箕面山 山中に一寺あり瀧安寺と稱す、寺内

に辨天社あり、其天女の像は役の行者が作な

りと傳ふ、又山中に瀑あり、箕面の瀑と云ふ、

瀑の附近には楓樹多く、紅葉時の美觀は豈陽

の花に優ること數等なり。

中山寺 聖德大師の開基にかゝる名刹なり。

有馬温泉 古來より名聲赫々たる靈泉にして

地勢海拔一千二百尺、三方山を以て環圍せら

れ一方僅かに開く、當温泉の由來は頗る古く

遠く神代の昔より温泉滾々として湧出し、人

代となりては 欽明天皇を始め奉り世々の天

皇此の温泉に浴し給ふと日本紀に見ゆ。

泉質は鹽類泉にして色は茶褐色なり、腫物、

皮膚病、中風、子宮病、貧血性に效驗著しと

云ふ、又一説に當温泉は肺病に不可なりと、

有馬には有馬六景、有馬十二景の撰あり、而

して鼓ヶ瀧を以て第一の勝區とす。

寶塚温泉 泉質は炭酸泉にして僕麻質斯、神

經症、子宮病、皮膚病に效あり。

湊川神社 楠正成の靈を祀る、社前に碑在り、
碑面には嗚呼忠臣楠子之墓の八字を彫す、是
れ水戸侯徳川光圀の建設する所なり。

布引瀑 布引山に登ること二町にして布引雌

瀑あり、瀑前に長廊を架し傍らに茶亭あり、

尙登ること三町にして雄瀑懸る、神戸市第一

の勝地なり。

須磨の浦 (記事の都合上播磨の部に入る)

山陽山陰

播磨國

須磨舞子明石

須磨、舞子、明石と云へば三歳の童兒と雖も其風光の絶妙なるを歌ふ、宜なり山陽の風光の天下に冠たるは即ち須磨舞子明石存すればなり、汽車は神戸より兵庫、須磨、鹽谷、垂水、舞子而して明石驛と順次に風光明媚繪の如き間を通過す。
須磨の浦 (攝津の國に屬す記事の都合上茲

に載す) 遙かに紀泉の連峯を眺め、淡路島は手にとる如く前方に横はりて一呼すれば彼れ應ぜんとするが如く、海岸一帯に松樹の翠綠は白砂と相映じ、白帆は順風を孕みて駛走する光景、實に絶景と云ふべし。
街道より北方三町にして名高き須磨寺あり、僧聞鏡の開基にかゝる、須磨驛の西方に當りて鐵拐ヶ峯あり、昔源義經が奇捷を博せし地なりと傳ふ、又街道より北すること十五町之路傍に五重の塔あり、其高さ凡そ一丈、之れを敦盛塚と云ふ、其他七百餘年前源平盛衰時代の古蹟多く、唯だ無官の太夫敦盛が熊谷次郎直實に花の如き身を討たれしは抑も何處ぞ

と訪ねれば、波濤の激する其音の松風に相和するを耳にするのみ。

頼 山陽

「松際旗亭薔香。山當人隊古城牆。分明走狗將逐兔。誰把殘杯醉九郎。」

成 島 柳 北

「夜來舟子控舷歌。調緩韻沈幽趣多。最是詞人腸斷處。松風潮月過須磨。」

俊 頼

「須磨の浦や渚に立てる磯馴松下枝は波に打たれぬ日ぞなき」

芭 蕉

「月あれど留守のやうなり須磨の秋」

山陽山陰

舞子の濱 舞子は松樹を以て有名なる地にして幾千章の古赤松繁茂し各松樹は其趣を異にし、或は舞ふが如きもの踊るが如きもの或は匍匐するもの仰天するものありて、其形容は他所の松樹と同じからず、且海濱の白砂は白玉を散じたるが如く、淡路島は近く前面に横はり其光景譬へんに言なし。

梁 川 星 巖

「粉蝶依微赤石城。香衫爭出踏春晴。最好舞兒磯上望。淡山如髻鏡中明。」

成 島 柳 北

「藝子には夕別れて又今日は舞子の濱にゐる舟人」

山陽山陰

一二四

明石の浦 明石町の海濱を明石の浦と云ひ、其風色の佳絶なる致て舞子に譲らず。

順徳院

「明石海人の菅屋の煙にもしばしばくもる秋の夜の月」

俊惠法師

「夜をこめて明石のせとに漕ぎ出れば遙かにおくるさを鹿の聲」

播磨國の諸名所

即ち人丸山にして歌聖柿本人丸の靈を祀れる人丸神社あり、人丸は石見の産なれども、都に徂く途次明石の浦の風光を賞して夫の「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島がくれゆく舟惜しぞ思ふ」と詠みしより人丸を此の地に祀りしものならむ、境内より須磨明石一帯の海を望む光景は眞に一大畫幅なり。

頼山陽

「亂松相映白砂明。隔水青山對晚晴。」

藤原興風

「鷗背無風細波靜。遠帆如坐近帆行。」

「誰をかも知る人にせん高砂の松も昔の友ならなくに」

高砂町 此の地古へは松林ありて古人の吟詠多かりしが今は其風致を減ぜり。

尾上神社 境内に相生の松、片枝の松ありて其形容奇妙なり。

姫路城 俗に白鷺城と云ふ。

書寫山圓教寺 天台宗に屬する名寺にして性

空上人の開基にかゝる。

華岳寺 淺野家の菩提寺なり、彼の赤穂忠臣

四十七士の遺物を藏す。

白旗山城址 赤松則村の賊軍に加勢して新田

義貞と戦ひし古城址なり。

備前國

備前國の諸名所

山陽山陰

後樂園 日本三公園の一にして其面積二萬七

千餘坪を有し旭川の清流に臨む、當園は池田

綱政の創設にかゝり明治四年に至り名を後樂

園と改めて公園に編入せらる。綠樹繁茂し池

あり瀧ありて風致愛すべし。

芳嵐園 芳嵐園の名は芳野、嵐山の二を兼ね

たりとの意より名けしものにして櫻花の勝地

なり。

臥龍の松 和氣郡香登村にあり、東西二十一

丈、南北十六丈、高さ十五丈ある稀世の巨松

詠人不詳

「移し植ゑし主はと後に人間はゝともに榮

一二五

山陽山陰

ゆく松はこたへよ
西大寺 金陵山觀音院と號し西大寺村に在り
眞言宗に屬する名利なり。
由賀神社 境内より瀬戸内海を眺望する景致
は到底筆紙に盡し難し。

美作國

美作國の諸名所

鷺の湯温泉 山陽第一の温泉にして倉敷川の
西岸湯郷村に在り、泉質は鹽類泉に屬し多量
の硫化水素瓦斯を包含す。
作樂神社 彼の元弘年間後醍醐天皇此の地に

假行在所を定められたるに（隱岐國に行幸遊

ばさる、途次）兒島高德夜陰に乗じて來り櫻

樹を削りて「天莫空勾踐時非無范蠡」

の句を彫したる舊址なり。

久米の佐良山 此の地古人の詠める國風多し

後鳥羽院

「音にきく久米の佐良山さらくに巳が名
たて、降るあられかな」

師 頼

「美作や久米の佐良山と思へども和歌の浦
も云へかりけり」

備中國

備中國の諸名所

吉備津神社 眞金村にあり、祭神は吉備津彦
命なり、社後の丘陵は吉備の中山と稱す。

後鳥羽院

「まがれふく吉備の中山うちとけて細谷川
に岩そぐなり」

家溪 此の地は巨巖數十屹立し、風景の絶奇
なること國中第一なり。

沙美海水浴 後は青山を負ひ、前は波靜かに
して油を流したる如き瀬戸内海に面し、涼風
徐々として來り人を心酔せしむるものあり。

王 治 本

山陽山陰

「涼風落日放遊船。白玉江千碧海前。
帆影欹斜隨岸轉。蜂痕平淡帶雲連。
微明燈臺崔邊崖。倒映星光水底天。
七月今宵猶既望。座看皓魄出波好。」

備後國

備後國の諸名所

阿伏兔岬 斷崖削るが如く、岩上に觀音堂あ
りて眺望絶佳なり。

福禪寺 應和元年の創建にして眞言宗に屬し
空也上人の開山する所なり、境内より内海を
望む光景は頗る明媚なり。

山陽山陰

西野梅林 西野村に在る梅林を云ふ、林中に碑ありて俳句を刻す

芭蕉

「梅ヶ香にのつと日の出る山路哉」

鳳源寺 臨濟宗にして妙心寺派に屬し寛永十年の創建なり。

安藝國

安藝國の諸名所

廣島城 毛利輝元の築造する所なり。現今は第五師團の營所に充てらる。

廣島公園 二葉山に在り、園内の饒津神社に

は淺野長政を祀る

佛護寺 廣島市第一の巨刹にして西本願寺に屬す。

嚴島

當島は佐伯郡に屬し、周回七里三十町にして島中に嚴島神社あり、國幣中社に位し市杵島姫、田心姫、湍津姫を祀れる名高き神社とす、而して其風景雅趣に富めるを以て日本三景の一に數へらる、其他島中に勝地多し。

周防國

周防國の諸名所

錦帶橋 一名を算盤橋と稱し日本三奇橋の一

なり、幼稚なる古代に於てかゝる合理の橋を築造せしは奇觀と云ふべし。

瑠璃光寺 禪宗に屬する名刹にして文明二年陶弘房の創建なり。

長門國

長門國の諸名所

松崎ヶ磯 觀月の名所にして風景宜し。

壇の浦 平氏滅亡の舊跡なり。

赤間の宮 安徳天皇の靈を祀る。

萩城 代々毛利氏の居城たり、萩町の北端指月山に在り。

山陽山陰

阿武の松原 風景松島に似たるものあり。

良教

「誰がためにあふの松原名をとめて我に難
面き色を見すらん」

八江萩八景 萩町近傍の沿岸に八江あり、之れを近江八景に擬す。

丹後國

丹後國の諸名所

天の橋立 人も知る如く橋立は日本三景の一

にして與佐郡に屬す、一沙洲の遠く與謝の海に突出すること約一里其幅三十有餘間にして

山陽山陰

一三〇

南端は小海峽を隔て、文珠と相對す、沙洲一帯には翠松生茂りて白砂と相映じ、遠くより之を望めば長洲海に映じ碧水天に連りて天上又橋あるに似たり、實に天の橋立の名を誣ひざるなり。

橋立を瞰望するに最も適したる地を成相山となす、脚下に天の橋立長蛇の如くに横はり北方一帯に與謝の海を望むの景、眞に一幅の繪なり、成相山中には成相寺在り眞言宗に屬す。

定家

「ふみも見ぬ生野をよそに歸る雁がすむ浪間の松と答へよ」

小式部内侍

「大江山生野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」

赤染衛門

「思ふことなくてや見ましよさの海の天の橋立都なりせば」

智源寺 曹洞宗の名刹なり。

丹後宮士 一名を由良ヶ嶽と云ふ。

丹波國

丹波國の諸名所

保津川奇景 龜岡より山城の嵐山に至る三里

の間は大小の奇巖散在し、水之れに激して白沫四散、或は水濺みて潭となり、或は一瀉千里の勢を以て奔下す、其奇觀云ふべからず。大江山 天田郡と丹後の國とに跨がり金山村に屬す。

寂蓮法師

「誰もみなあかね名残に大江山秋は生野の方をながめて」

但馬國

但馬國の諸名所

城の崎温泉 古來より有名なる靈泉にして我

山陽山陰

國屈指の温泉場たり、三面山を負ひ、東方は圓山川に瀕す、僅かに三十町を隔て、渺茫たる日本海の海濱に出づべし、されば風景の佳なるのみならず、空氣清爽にして氣候の變化少し、泉室は無色無臭の亞兒加里性にして鹹味を帶ぶ、慢性腸胃加答兒、腺病、脚氣、子宮病、腹膜炎、敵毒性諸症等に效あり。温泉場には設備完全し又附近に遊覽所も多ければ浴客は無聊に苦しむが如きことなし。玄武洞 一名石柱洞とも云ふ、洞内には石柱を幾千となく積み重ねたるが如く其石柱は皆六角形を成す、實に偉觀なり。鷹野の濱 海濱に奇岩怪石横はりて激浪之れ

一三一

山陽山陰

にあたり壯麗筆紙に盡し難し。

因幡國

因幡國の諸名所

岩井温泉 泉質は鹽類泉にして貧血症、癩癬に效あり。

稻葉山 故人の此の山を詠みたる國風多し、次に一二を掲ぐ。

行 平

「立ちわかれ稻葉の山の峯に生ふるまつとしきは今かへりこん」

爲 家

「立かへり今や稻葉の山風もまつに音する初かりの聲」

伯耆國

伯耆國の諸名所

船上山 後醍醐天皇隱岐國より還幸せられ名和長年迎へて船上山に導き奉り、此の山を假行在所となす。

名和神社 元弘の忠臣名和長年を祀る。

大山寺 大山の半腹に在り、天台宗に屬する古刹なり、大山は中國第一の高山とす。

夜見ヶ濱 海中に突出すること五里の半島。

隱岐國

鳴尊の御子大國主命を祀る、社殿古風に造られて神々し。

隱岐國の諸名所

後鳥羽天皇廟址

後鳥羽天皇

「なだならば藻汐やくやと思ふへし何と焼く火の烟なるらん」

黒木神社 後醍醐天皇の尊靈を祀る。

石見國

出雲國

出雲國の諸名所

矢道湖 周回十三里湖畔景致に富む、特に嫁ヶ島は風景絶佳にして夏日清遊する者多し。美保神社 祭神は事代主命三保津姫命なり。一畑寺 一畑山の半腹にあり、醫王山と號し臨濟宗に屬する名寺なり。

出雲大社 世人の汎く知れる大社にして素盞

山陽山陰

南海西海

石見國の諸名所

温泉津温泉 著名の靈泉にして泉質は鹽類泉なり。
人丸神社 歌聖柿本人丸の靈を祀る。

人丸

「石見野や高津の山の木の間に我ふる神を妹みつるとも」

南海西海

紀伊國

紀伊國の諸名所

玉津島神社 當社は和歌の浦の靈に衣通姫を配せ祭ると云ふ。

崇徳院

「過ぎかてにみれともあかり玉津島むへこそ神の心とめけれ」
和歌の浦 我國著名の勝地なり。

西行法師

「和歌の浦に鹽木かさねる契をはかける燒藻の跡にてそ見る」

寂蓮法師

「和歌の浦を松の葉こしに眺むれば楢によするあまの釣舟」

粉河寺 西國順禮第三の札所とす、境内の風光秀媚なり。

高野山 山中に金剛峯寺在り、我國有數の靈場たり、當寺は弘法大師入寂の地にして眞言宗とす。

烏丸光廣

「むすびおくえにし朽ちめや高野山その曉なまつの下つゆ」

南海西海

道成寺 天音山と號し天台宗に屬する古刹なり。
熊野速玉神社 社殿宏壯にして輪奐の美を盡くせり、熊野夫須美大神を主神とし其他數神を合祀す。
熊野夫須美神社 熊野夫須美大神、伊佐那美尊、事解男神を合祀す。
青岸波寺 天台宗にして那智山と號す、西國順禮第一の札所なり。
那智の瀑 那智山中には大小の瀑四十有八あり世に有名なる那智の瀑は第一の瀑にして其雄壯なること譬ふるに物なし。

源仲正

南海西海

「雲が、る那智の高嶺の風吹けは花ねきみ
たる瀧の白いと」

淡路國

淡路國の諸名所

入幡神社 洲本町に在り、應神天皇を祀る。
岩谷港の繪島 高さ十間、周回四十間許りに
して岩頭古松を生じて奇状いはんかたなし。

藤原宗基

「さよ千鳥ふけの浦に音信て繪島の磯に
月傾きぬ」

鳴月崎 淡路國の西端に在り、海中に斗出す

ること十五町、阿波の孫島と對して海峡をな
す、有名なる鳴月の落湊ウツマキの生ずる所なり。

爲

家

「淡路島行合ふ瀬月の汐さきに安くも渡る
友千鳥かな」

阿波國

阿波國の諸名所

瑞慶寺 持明院と號し、眞言宗の巨刹にして
樂師如來を本尊とす。

鳴戸ウツマキ 落湊を起こす景状は淡路國より觀ると
ころと異ならず。

讃岐國

讃岐國の諸名所

祖谷の蔓橋 祖谷川に架したる奇橋にして蔓
を編みて橋となせり。

太龍寺 延暦年間、桓武天皇の勅により弘法
大師の創建するところなり。

栗林公園 讃岐侯松平氏の遊息所たりしを公
園とせらる、日本三公園に比肩する公園なり

法然寺 浄土宗に屬する名高き寺なり、本堂
には宗祖圓光大師作の阿彌陀佛を安置す。

壇の浦 屋島山は後ろに屹立し前は庵治半島

南海西海

伊豫國

伊豫國の諸名所

善通寺 空海上人生誕の地として普く世人に
知らる、堂宇結構を極め境内廣寛なり。

祭神は大己貴命なり、當社は我國有數の繁昌
なる神社なり。

佛刹なりしが明治に至りて琴平神社と改む、
古昔は象頭山金毘羅大権現と稱して眞言宗の

琴平神社 琴平町の西琴平山の半腹に在り、
賽人常に絶えず。

と相對し風光絶佳の地なり。
志度寺 眞言宗にして京都の仁和寺に屬す。

南海西海

道後温泉。泉質は亞兒加里性にして、殊に腺病、敵毒、貧血性、子宮病、使麻質斯、肺結核に效驗ありと云ふ、當温泉場は年々の浴客數十萬に上る以て其盛大無比なることを知るに足るべし。

興隆寺。西山寺とも稱し、眞言宗にして、善門院佛法山と號す、四國に於ける屈指の名刹なり。
石槌山。海扶六千四百尺、山頂に石槌神社在り、石土毘古神を祀る。

洞院左大臣

「道とはき伊豫の高根をたづねても人の行へを我にしらばよ」

出石寺。金山と號し、眞言宗に屬す、元正天皇の養老二年の開基なり。

土佐國

土佐國の諸名所

浦戸灣。一名を吸江灣と稱し灣の近傍に十區の勝景を擇ぶ、之れを吸江十景と云ふ。

土佐神社。國內第一の大社にして一言主の神を祀る。

桂濱。濱の長さ二里餘、白沙一帶波際に連り夏期の消暑、秋期の觀月共に佳し。

龍串の奇景。海濱に奇岩怪石數多起伏し刮目

に違あらず、實に土佐第一の勝景なり。

筑前國

筑前國の諸名所

海の中道。白砂青松遠く相連り風景明媚の地なり。

頼山陽

「松林横截大江湖。萬疊波間碧一條。」

此景縁何在西僻。直須奴僕命天橋。」

香椎宮。神功皇后、應神天皇、底筒男命、中筒男命、表筒男命を祀る。

箱崎八幡宮。應神天皇、神功皇后、玉依比賣

南海西海

命を祀る。太宰府廳址。現今は僅に礎石を存するのみ。

太宰府神社。菅原道眞を祀る、社殿は素樸にして高潔なり、社背に梅樹數百株在り、又有名なる飛梅は社前に存す。

天拜山。山頂に天滿神社ありて菅公を祀る、傳へ云ふ菅公此の山に登りて冤を天に訴へしと。

筑後國

筑後國の諸名所

氷山神社。伊弉册命、速玉男命を祀る、社地

南海西海

は山の中腹にありて閑静なり。
日向神山の奇巖 國內第一の勝區なり。
高良神社 祭神は高良玉垂命にして高良山嶺
に在り、山上の眺望甚だ閑裕なり。
高山彦九郎墓 久留米市遍照院に在り。

豊前國

豊前國の諸名所

英彦神社 創立は古くして年月を知るに由
なし、祭神は天忍骨命、伊弉册命、伊弉諾命
にして、世に著名なる彦山権現是れなり。
國分寺 眞言宗に屬する古刹なり。

耶馬溪 頼山陽一度耶馬溪を以て天下第一の
勝景なりと賞してより其名世に知らざるもの
なし。

頼山陽

「峰容面々趁看殊。耶馬溪山天下無。
安得彩毫如董巨。生嫌一丈作橫圖。」

梁川星巖

「石約峯頭山東溪。烟雲錯々樹低迷。

畫人要聞黃家秘。何不齋糧到鎮西。」

羅漢寺 耶馬溪の北端に在る名高き古刹にし
て、寺境は溪中の一勝たり。

宇佐八幡宮 我國屈指の大社にして和氣清麿
の故事を以て其名史上に高し、祭神は應神天

豊後國

皇、神功皇后、比賣大神の三座とす、殿宇結
構を極め境苑の風致又佳なり。

豊後國の諸名所

別府温泉 東は別府灣に面し西は翠緑の山を
貫ひ四時共に靜養地として屈強の地とす、泉
質は一樣ならず、凡ゆる種類の温泉湧出す、
温泉中不思議なるは海岸の砂中より湧出する
もの、或は蒸氣のみを出す鐵輪温泉等を存す。
總持院 兩子山の牛腹に在る古刹にして天台
宗に屬す、境内老樹繁茂し頗る幽寂なり。

南海西海

肥前國

肥前國の諸名所

沈墮の瀑 大野川の水斷崖より落つるものに
して高さ六丈、幅五十間あり、其壯觀譬ふる
に言なし。

武雄温泉 九州屈指の温泉場にして、泉質は
炭酸泉なり。

見瀧寺 聖命上人の開基にかゝり天台宗に屬
す、小寺なりと雖も寺境に大瀑ありて眺望に
富む。

名護屋舊址 豊公が征韓の時に本營とせし跡

南海西海

一四二

にして附近の風光極めて佳なり。
嬉野温泉 西嬉野村に屬し嬉野川の左岸にあ
り。
長崎公園 土地閑雅にして長崎市内隨一の風
景を有す。
諏訪神社 長崎市に在り、建御名方命、八坂
刀實命を祀り、毎年十月に大祭を施行す。

壹岐國

壹岐國の諸名所

住吉神社 底筒男命、中筒男命、表筒男命を
祀れり。

湯野浦温泉 泉質は硫黄泉にして、徽毒に持
效あり。

對馬國

對馬國の諸名所

海神々社 豐玉姬命を祀る、殿宇古風にして
庭園閑雅なり。
小茂田濱神社 祭神は對馬目代右馬允宗助國
にして、傍らに元寇の役の戦死者數十名の靈
を祀る、附近の佐須の浦は風景絶佳の區なり。

肥後國

肥後國の諸名所

菊池神社 南朝の忠臣池地武時を祀り武重、
武國、武光、武政、武朝を配祀す、境内は眺
望に富む。
山鹿温泉 硫黄泉にして痛風、徽毒等に效驗
あり。
田原阪 明治十年の役に激烈なる接戦ありし
所なり、坂上に記念碑あり。
飯岩 戸口浦村にありて風景絶佳の地なり。
八代宮 征西將軍懷良親王を祀り、成良親王
を配祀す、殿宇壯麗ならざれど白木造のいと
神々しく覺ゆ。

阿蘇神社 祭神は健甕龍命にして、殿宇古風
の建築にかたどり極めて雅致を存す。
玖摩川の急流 日本三急流中の隨一なり。

日向國

日向國の諸名所

宮島宮 神武天皇を奉祀す、宮の西北に位す
る古市は御東征以前の宮址なりといふ、毎年
十月二十六日に大祭を行ふ。
高千穂の遺址 都城町の内宮丸に在り。(高千
穂の遺址なりと云ふもの數ヶ所あり。)
都農神社 日向國一の宮と稱し、祭神は大己

南海西海

一四三

貴命なり。

大隅國

大隅國の諸名所

霧島神社 瓊々杵尊、彥火々出見尊を始めとして其他の諸神を合祀す、殿宇の結構精緻赫燿として眼を眩かす。
稻積里 和氣清鷹の配所なりと云ひ傳ふ。

資 雄

「久方の天津日繼のみことのり君居ませずはむなしからまし」
田子社 風致佳絶の地なり。

薩摩國

薩摩國の諸名所

田之浦 景致勝れたる地にして鹿兒島八景の撰あり。
菅原神社 海濱断崖の中腹に在り、此の地眺望に富むを以て四時遊客絶えず。
櫻島御岳 其形容富士に似たり。

僧 不 石

「南海灘頭獨聳天。紅霞青靄單相連。
春光莫訝火光映、滿山杜鵑花欲燃」
湯河内温泉 温泉數ヶ所より湧出し、虚弱者

に效驗あり、四時浴客群集す。
薩摩の迫門 潮勢急にして舟運甚だ難し、萬葉集に薩摩がた迫門の早みの汐さわは只漕過よ錠卸さてとあり。

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日)	天 氣 ()	寒 暖 ()

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天 氣 () 寒 暖 ()

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天 氣 () 寒 暖 ()

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天氣 () 寒暖 ()

旅 行 日 記

草 詠				月 日 (曜日) 天氣 () 寒暖 ()

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

旅 行 日 記

草 詠

月 日 (曜日) 天氣 () 寒 暖 ()

來 訪

往 訪

宿 泊 所

考 備

明治四十四年九月二十八日印刷

明治四十四年十月三日發行

定價金四拾錢

東京市本郷區根津藍染町
編輯者 尾崎良隆
發行所 大醒出版社

東京市本郷區根津藍染町七番地

印刷所 東洋印刷株式會社

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

不許複製

伊豆伊東溫泉
玖須美

○溫泉清麗○

大阪屋旅館

○風景絕佳○

影寫鮮明。
廉價提供
東京市本郷區
根津藍染町
津田寫真館

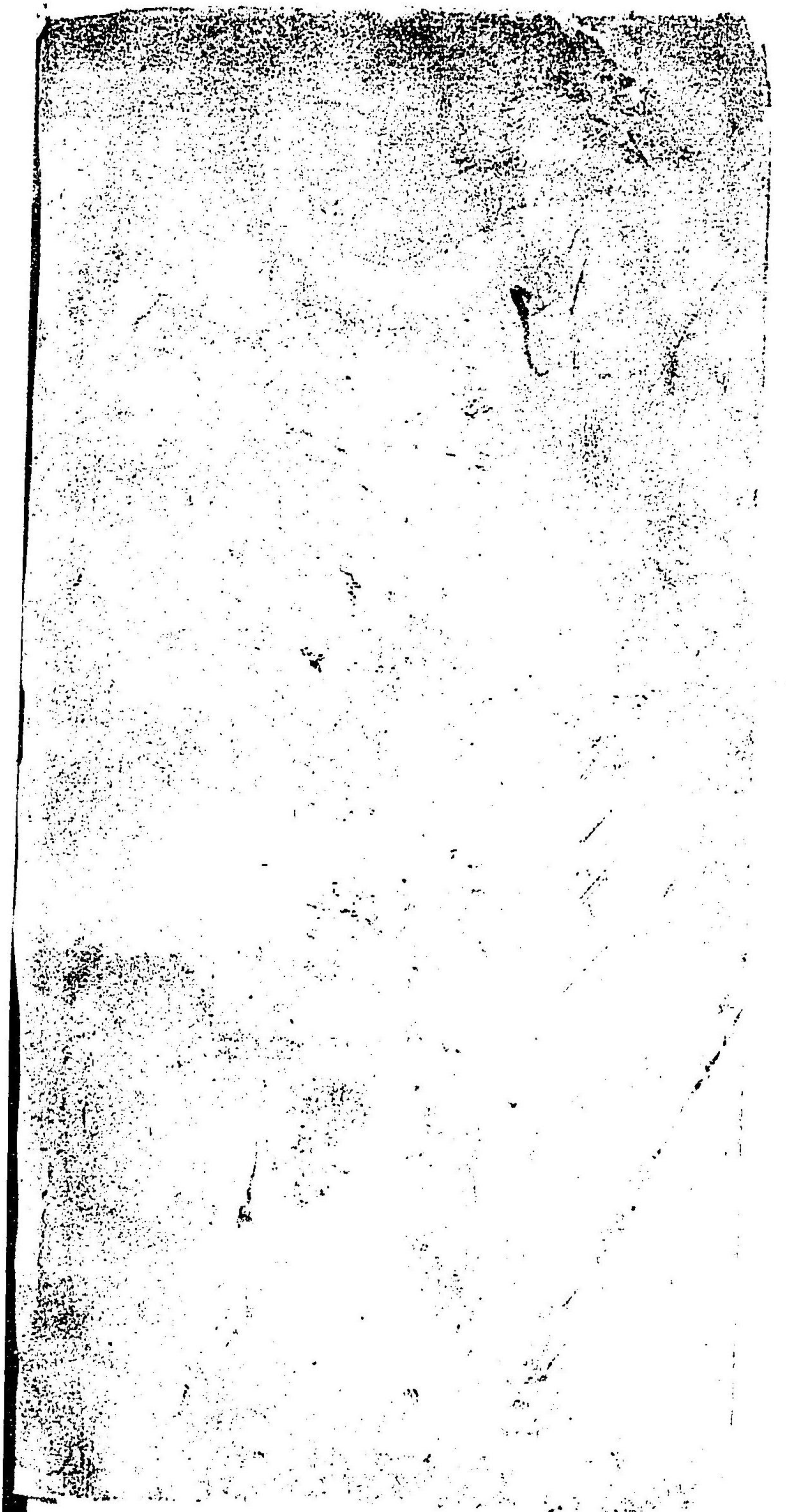
268
453

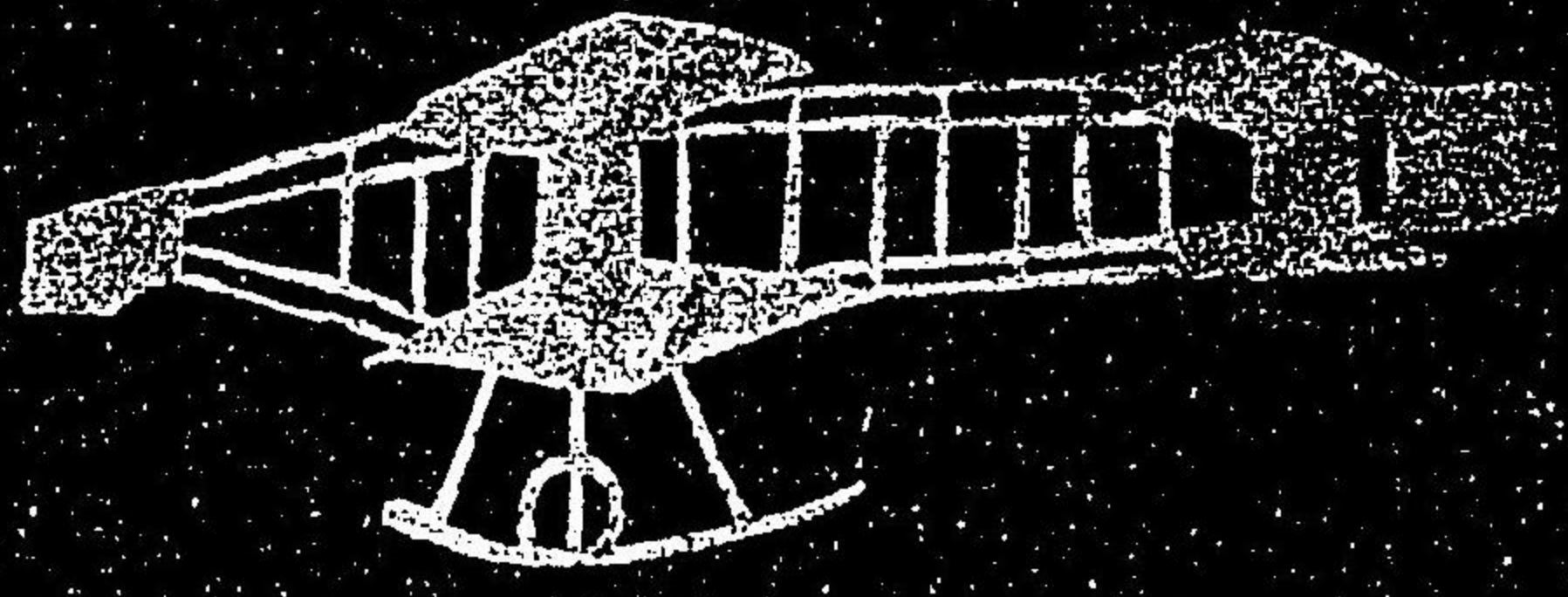
伊豆 伊須 東 溫美 泉

● 避寒避暑の仙境 ●

櫻屋旅館

● 療養の樂園 ●





268
453

022670-000-3

特30-253

旅の友

尾崎 良隆/著

M44

ADB-0441

